明治四十四年十一月二十日發行

# 婦人衛生雜誌

第二百六十四號

# 婦人衛生雜誌

## 第二百六十四號目次

# 大日本婦人衛生會

## 十一月例會通知

來る十二月二日(第一土曜日)午後〇時半より神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て例會相開き左の講演有之候間萬障御差繰御知友御誘引御來會被下度候也

一、子供の育て方

醫學士 宇都野 研君

明治四十四年十一月二十日

私立大日本婦人衛生會

子供は最も健に美しく活潑に温順しく強く賢く育てたいと云ふのは子を持た親心の誰しも同じことでありませうが、育方を誤て此理想と反對の結果を獲ることは世間その例に乏しからぬことであります、且醫學の進歩と共に育兒法も大に改良しなければならぬ點が多々ありますから今回の例會には特に小兒科專門の講師を招請して、現に母たる人又將來の母たるべき方々の爲め、極平易に子供の育方のお話をして頂くことになりましたから、會員は勿論、御知合の御婦人は老少に拘らず御誘の上御來會あらむことを希望致します。

## 講演

# 歩行に就て

ドクトル　エム・コンラード述

直立歩行、即ち立つて歩くと云ふ事は、地球上に生活して居る者の中で、人間に特有のことでありまして、其言語と共に他の動物より、根本的に區別さるゝ所以でありまして、最も人間に近い動物も、此處だけが違つて居ります。

歩行、即ち身體、獨手に前に進めて行くと云ふことは、生れ乍らにして出來るのではありません。小兒は、漸時に其歩行を學ぶので、其かはり一旦覺えてからは、最早忘るゝことは無いので御座います、尤も長の病氣で久しい間ずつと牀に就て居る樣な場合には、暫時歩行を忘れることもあります。歩行は何でもない樣に思はれますけれども、若しこれを一々分解して見まするど、中々複雜して居るものであります。身體の姿勢と位置との關係で身體に起る所の細かな變化に就ての說明は、早取寫眞が出來てから漸く解つて來たのでありますが、それでも歩いて行く所の人が實際のとほりには寫せません、と云ふのは、實際は別れて居る所の間歇を、目では互に結び付けて居るからであります、ひとり足のみならず、其他の部分も歩行に關係して特有の變化を致します。

勿論脚の働が第一でありまして、普通歩行の際に其脚を觀察致しますと、二樣の主な働をする事がわかります。先第一の長く續く所の時期に於ては、懸脚である卽ち、股の所で腰に掛つて、そうして稍々膝の所で曲つて——そうで無ければ地に引ずりますから

――時計の振子の樣な運動をして、其足が前足の後にあるだけの幅を、前の足の先に出す樣になる。其から暫時立つ脚になつて、伸した位置で以て地の上に立つて、他の脚が懸脚の働をする間、身體の重味を擔ふ事になる。それで歩行に際しては、平均の位置から重點が變じて、身體の重味が交互に一方の脚から他の脚へ移るのであります。脚の振動が止むとすぐに地にふれる所の足は、普通人が考へ居る如くすぐさまふれるわけではありません。又兵隊さんが歩調を取る時の如く、或は踊の時に敎へらるゝ樣に、趾先からふれるのでもなく、踵が先について、それから始めて足の前の方がつくのであります。立つて居る時でも、歩く時でも、身體は、足の蹠全部に重味を掛けるわけではなく、寧ろ一種の穹窿を形造つて、其支點は踵の後ろの所に在つて、前の方の重なる支點は母趾のつけねの丸くふくれた所と、小趾のつけねの丸くふくれた所との間の部分に當りますから、從つて通常の歩行に際して、靴の底の其部分が一番早く薄くなるのでもわかります。これは日常の經驗から靴屋が良く承知して居ることで御座います。

足蹠を地から擧げる時には、矢張足を下す時と同じく、一時に擧げるのではない。先づ踵を上げ、次で足の殘りの部分が上つて、終には只拇趾の尖だけで地について居るやうになるのであります。

歩行の間に起る所の軀幹の特殊の運動は、平に前の方に進まずして、波の樣に上下に動く、而して足が地に著く瞬間に最も低くなり、他の足が著くまでの時間の中央で最も高く擧げられます。

腰の運動は何うかと申しますと、右脚が前に進む時には、右腰も亦前に行きまして、左の方が後になる。左脚の前進する時には、左腰が前に出て、右の方は後になります。所が、肩、それからこれに懸て居る所の臂は又別であります。腰の歪みは肩の方で反對に調子を取て平衡されるので、肩と臂は、同側の腰や脚と反對の方面に廻りまして、右脚の前に出る時

には、左の肩と左の臂が前の方へ行き、右が後の方へ參ります、これを反對に左脚が前進する際には、右が前に左が後へ行くやうになるのであります。歩行の際に於ける身體の姿勢は、一部は歩き方の速いと遲いと關係しまして、緩くり歩く時には、眞直ですが、急ぐ時には前に掛るやうになります。この歩行の遲速は、本來歩幅の長さに由るものでありまして、歩幅は叉脚の長さに由る、それで脚が長ければ長いだけ歩が大きい、從て大きな人は大股、小さな人は小股に歩きます。それ故、大きな人と小さな人とが同じ速力で行くと云ふのには、小さな人は、大きな人よりも同一時間内に、多く足を運ばなければなりません。これは殊に子供と大人が一所に歩く時、又身長の異なる二人の大人が歩く時、就中男と女が同行する時、卽ち通常女は男よりも小さいからと云ふわけになります。倘これには、婦人は概して脚の長さが身長に比して男子に於けるよりも短いと云ふ關係もあります。

婦人の歩行は只今申しました通り、脚が短いと云ふことから、小股に歩くと云ふことが男子と異なるのみならず、倘他に相違があります。それは、歩行の際に腰の出し方が、婦人に於ては著しく目立ちまして、身體を支へて居る時期が、婦人に於ては移行期に比して割合に長く、肩と臂の運動が弱い。男子の歩行はより多く衝突的能動的性質を帶び女子の歩行は動搖的被動的性狀を帶び、男子は飛行的迅速に至らんと求むるに、女子は成立せるものを保持せんと勉む（ツエ、ハー、ストラッツ）

小兒の歩行は又其特性がありまして、歩き始めの頃は其歩行は、非常にヨロヨロして平衡を保つために、上體を以て此方によつたり、彼方へよつたり、都合八人と云ふ歩き方をするのが通常であります。そして往々危なさうに、小さな手を高く上げるものであります。足は、最初は時々眞直に前へ伸べますが、これは良くお母さん方の云はるゝ通り、別にあやしむべきことでは無い、寧ろ足先をあまり廣く外に向

けるよりも、良い方であります。尙子供の持前として、大人の樣に平均に一樣に步きませんで、一寸早く步つたり、一寸遲く步つたり致しまして、殊に靜に步くよりも走つたり、跳んだりして步くのを好むと云ふのが持前であります。それ故に大人と一所にゆつくりした步調で、步けなどゝ、いらざることを強ゆるのは全く小兒と云ふ者の性質を考へちがへてる居ことで、これは小兒に取つては甚だ不自然なる強迫でありますから、いつでも小兒がこれを免れ樣とするのはあたりまへの事であります。

一體人間の步行と云ふものは、非常に色々な者でありまして人の步き方に依つて、一種の觀想法が行はれると云ふ程であります。實際、步き振りの千差萬別は一程度までは、表情の千差萬別に比することが出來るものでありまして、既に通常に於ても種々の步き方があります。例之ば莊重な步き方がある、これは兩足を地につけることが、擧げた足の振動時よりも長く、地より足を擧げることが、緩慢に、且つ徐々で體は眞直だと云ふよりも、寧ろ稍々後ろの方に保たれると云ふ氣味の步き方であります。それから無骨な百姓的の步き方になりますと、足を擧げるにも亦段々に足を下すにも、先づ踵から起らずに寧ろ一時に足底を上げて、多少重味を持たして踏み下し、又同じ樣に一度に上げると云ふ步き方であります。又彼のヒョコ〳〵步きは、足を上ぐる際に踵を特に強くはね上げて、全身を之につれてあの樣な步き方が起るのであります。それから彈力のあるハイカラの身輕の步き方は、足の運びがことの外輕く巧で、足が只暫時其全面を以てふれる計りで、ほんの足先を以て稍々久しく地面にふれるのであります。次に疲勞した足を引きずる時の步き方は、脚が膝の所で曲つて、足が辛うじて地よりはなれ、所謂引ずると云ふ鹽梅であります。又急ぐ時の步き方は、腰を低くすゑて之に依つて步幅を大きくすると云ふのが特徵であります。

人間の步き方は、多少その人の性質、氣風、性格、

殊に姿勢の關係に由るものでありまして、既に普通の言葉にも表はれて居る通り、先づソロリ／＼と參らうと申せば、これは全く氣の落着いた人の歩き方であつて、現はれ出たると云ふ場合には、心に一物あつて、將に事を始めんとする人の歩き方であります。又奴隷的の歩き方もあり、或は堂々たる歩き方もある。それで古の希臘人は、既にこの意味からして、歩き方には餘程重きを置いたもので、その物語の中にも、神々が人間の中に御出になる時は、その歩き方で以て、此世の死すべき人間を見分けがつくと申して居ります。實際普通の歩き方の相異のみならず、一々その人の特有の歩き方があるものでありまして、此の人の歩き方と彼の人の歩き方とを較べて見ますと、各々一種の型がある。これは一つは、その足の踏み付け方の性質に由るものでありまして、聲と同樣に、その人を見なくつとも、只足音を聞いたゞけで、その誰であるかゞ分かります。又これは一にはその胴の姿正に由つて、その微かな動搖が關係し、尚は臂の振方にも人に依て相異があり、且つ身體の左右不相稱に由て、左側の姿勢と右側の姿勢には幾分か差があります所から、自然歩き方足の踏付け方にも各々固有の特徴が出來て參る譯であります。それで斯樣な人は、通常後から見ましても、その歩き方に依つて、確かにその人なることを認めることが出來るのであります。

特に歩行は種々の疾病の爲に甚しい色々の變化を受けるものでありまして、醫師は、病人の歩きつきを見たゞけで直接に診斷をつけることの出來る病氣も隨分あります。尚ほ歩き方に依て、足の踏み付け方に異常を來し、その靴の減らし方を見て、歩行の障碍、又その原因をなして居る所の病氣を診定することもあります。正しい歩行を致しまするは、なかなか複雜した仕掛が要るのである、先づ腦髓の機能と意志の興奮を腦から脚の方へ傳へる所の神經の路とが健康でなければならぬ、それから筋肉、骨、關節、靭帶、尚ほ下肢の皮膚が尋常でなければならぬので

あります。若しこの中の何處かに故障が起りますと、通常その步行にも亦一定の變化を來すことになります。

例へば僅かに足の底に豆とか雞眼とか出來て、少し痛があれば、それだけでも既に通常の步行を妨げることは著しいもので、步くときには知らず識らずの間にも、その痛のある部分をいたはるやうな步き方になる、卽ち足趾に痛い處があれば、踵で步くやうにし、踵に痛があれば足尖で步くと云ふ風であります。關節痛の爲には、その關節が硬ばつて動かなくなることがあり、骨や關節の烈しい病氣、又捻挫、脫臼、骨折などを起すと云ふことになれば、甚しく步行の妨げられることは無論のことで、その病足をいたはる爲に、只その脚を後の方に遲らすことは最も屢ゝ見る所でありまして、その一方の脚が他の一方の脚よりも少しく暇どるので、步行の調子が不平均になつて參ります。

其他生來の股關節脫臼の步き方は、甚だ著明なものでありますが、これは今日では、十年乃至二十年前に較べますと、その步行に就ては餘り心配しなくとも宜いやうになりました、と云ふのは、今日の所では、早く治療を施せば、殆ど完全に癒すことが出來るやうになつたからであります。その治療を施さない、特に兩側の股關節脫臼の人の步行は、所謂ヨタ〳〵步みで、一方の脚を運ぶ度每に、他側の腰が沈み、その結果、胴が全部他側の方へ行き、右の脚を運べば左の方へ、左の脚を運べば右の方へ沈むので、絕えず全身を彼方此方によろつかせるものであります。又普通扁平足と云ふて、足の蹠の窪みのないものは、足尖を以て強く外の方へ向ける傾が有て、從て主に足の內緣で步くものであります。特に神經系統の病氣では、一種定まつた步行の變化を來しまして、何人も能く知つて居るのは、「アルコール」に因る腦の急性中毒、卽ち所謂醉ばらいの足取であります。此の場合に於きましては、その人固有の步きつきは、略ぼ尋常でありますが、一步每に常に身體の

平均が失はれて、更に再び骨折てそれを恢復しなければならぬと云ふのが、此の中毒症本來の障碍であります。それ故に絶えず本の方向を失ふて、プラプラ、ヨロ／＼と云ふ狀態を演ずるのであります。

步行の障碍は、最も屢々神經の病に出て起るものでありまして、腦、脊髓或は神經索の大事な部分の故障の爲に、その支配を受けて居る脚の筋肉が幾分か弱はり、或は全然麻痺して仕舞ふのであります。前進運動は、一定程までは、兩脚の全く麻痺したものでも出來ないことはない、卽ち倚杖を腋の下に當てるか、或はその他の方法を以て、しつかり肩を支へて、體軀と脚を前へ引き運ぶので、斯樣な病人は全く脚を以て步くのではない、腕と肩で以て步くのであります。脚の筋肉の麻痺は、普通完全に麻痺して仕舞ふと云ふことは餘り御座いません、例へば彼の卒中症で、その後麻痺の起ることは最も屢々見る所でありまして、その麻痺は完全ではない、大概一部分で、且他の筋肉の一部の強剛を伴ふのが通常であります。これが爲に彼の一種異樣の硬ばつたやうな姿勢になるのであります。この卒中症の結果として脚の麻痺した人の步き方は、主として健康の脚で支へて、その麻痺して居る脚を引くものでありますが、往々又その麻痺した脚を振て前に運ぶ代りに、健康の脚の周をぐるりと半環狀に廻らすやうにして前に持て行くのもあります、而してその際足尖は腓腸筋の痙攣性收縮の爲に地面に壓しつけられて、恰も粘りつくやうな風になり、既に遠くからも聞える一種足搔やうな音を起してるものであります。若しその強剛が專ら筋肉にあるものとすれば、その步行は往往稍々發條的、彈力板的で、恰もナイフの刃を開く時のやうな調子になります。最後に、も一つ極めて定型的の步き方を申せば、種々の脊髓病患者が、その病氣の進んだ時期に現はす所の步き方でありまして、その脚の運動は、非常に頓狂な、振拋げるやうな動き方で、脚は過度の力を以て、法外に高く上に擧げて、それから踏潰すやうに、力を込めて下し、

而かも頗る不確實で、大抵その思はざる所に蹈み下すものであります。

# 叢談

## 歌聲の諸病

醫學士　細谷雄太

聲樂を嗜まるゝ方は中々多いので御座いますが、是に就て音聲の病氣も中々尠くないので御座います、私は、自分も色々な邦樂で特に聲樂が一番好む所で御座いますから、醫者としても音聲の事に就て多少調べもし、また音聲に伴ふ諸病を研究して居る理であります、是れより色々の歌聲病に就きまして述べて見ようと思ひます。

### 歌聲病の原因

歌聲を害する樣な原因は非常に多いので殆ど無數であります。醫者が之を診まして原因を考へさしましても、常に迷惑するほど多いのであります。また治療する場合に一々此等の原因を除くに最も困難なることが屢々あります。すべて趣味を持たるゝ方は聲樂をおやりでありますが、先づ舞臺に出らるゝ音樂家の事を說きまして、皆さんの御參考とし、御心得ともなさらんことを希望いたします。

此等の專門音樂家の聲病に就きまして、原因を云ひますれば、一生中種々の原因に遭逍して居ることであります。本邦では夜間にかけての演奏が專らでありますから、彼の寄席藝人の仲間に見ますれば、大抵一人が五六軒掛持ちであります。食事の時間さへ十分御座いません、從て職業生活から、胃腸を碍することが先づ多い。實際に於て音樂家や俳優などを診ますと、往々慢性胃腸加答兒、胃腸無力症、常習性便祕などが多いのが知れます。西洋で千九百三年プラアグのイムホフエル氏が聲樂家に多い病氣と

して、消化不良性咽頭炎、或は胃性咽頭炎を記載したことがあります。今その大要を述べますと、鼻や咽喉が充血して靜脈の蛇行せるものあり、粘膜は浮腫の如く腫れ上がり、咽頭口部に及び特に口蓋弓に著しい、或は粘膜が白色となり、光澤を失ひ、或は紫色に變じ、音聲は明瞭ならず、談話するさへ重苦しく、歌唱には非常に困難するのであります。そうして此等の聲音衰弱症と消化障碍とは離るべからざる關係あり、消化器の治療法さへ完全なれば音聲は自ら恢復するのであります。

本邦でも同様の音聲病が、最も屢々遭遇するのであります、寄席藝人とか、一戸を構へ稽古場を持つて居られる人などには、私は屢々之を診ました、音樂學校の方々にも遭遇したことがあります、これは本邦の食物が植物性のもの多く從て消化器に於て障碍することも或は多いのでは無いかと思はれるのであります。加之ならず本邦に在りては諸事秩序あること稀にして自由勝手に振舞ふことが最も多く。彼の藝人社會などに於きましては食事の不規則なるは勿論、例の流連荒亡、歌曲なども明日と迫りて復習する様な始末は屢々見るところであります。然かし諸流の大家となりますと流石に衛生を守らるゝこと嚴正に美音を御聽きに逹することに努力せらるゝかに思はれます。また樂家の住居及び演奏場の周圍の關係があります、例之ば周圍の空氣不潔にして工場より煤煙、塵埃及び不潔空氣の襲ふ様なことは大に病因となるのであります、ロストックのケルチル氏は『聲音衛生』と云ふ演説をされたことがありますが、就中、鐵道加答兒と云ふ名目を設けられました。それは音樂家の立場として列車旅行をせらるゝこと頻繁に屢々車中にて煤煙、塵埃などを多く呼吸され遂に五氣道を害し自分職業の歌聲にまで悪影響を及ぼすことであります。

此等の點から見ますと演奏場の内外に十分に注意しなければなりません、從て其の構造などは一々專門的に設計せらるゝは勿論、衛生學者にも亦萬事相談

せらるゝことが必要と思ひます。先づ空氣の流通は勿論のこと、音聲の反響する工合から、溫度變換の仕組まで注意が屆かなければなりません、室內空氣が無暗に乾燥したり、溫暖に過ぎたり、或は塵埃が流れ込む樣ではいけません、勿論空氣が流通し過ぎても宜しくないのであります。

最後に歌聲病の原因として、最も多いのは教授法及び音聲を發するに適當ならず、從て音聲を使つて不經濟的なることであります、これは第一に教授法が其當を得ないので、先生は先生で勝手に歌ふも生徒は十分に習得せず、之を復習するにも困難する樣なことより起因して居ります。生徒も亦自分勝手の自己流に歌ふからして不自然の個所多くなり、その度每に困難し聲音を害する樣な次第であります。之を要するに聲家は常々原因が多く、一々物色するに迷惑し、或は糺命することが出來ない場合が多く音樂家自らもそんな事は考へる暇もなく、或は暇があつても顧慮する樣な心掛けがありません。先づ歌聲病の事を十分に知らるゝには、歌聲生理の事を第一番に知悉さるゝ必要あります、故に次回から多少とも生理上の事柄を述べましょう。

# 外面如菩薩

醫學士 藥學士　高橋學而

古人は、春は花、秋は紅葉と申し候ふて、

春は唯花の一重にさくばかり
物の哀れは秋ぞまされる　（萬葉）

時は秋、秋は紅葉を、世にげにもうるはしきものにいひならはし候へ共、秋のうつくしきはたゞ紅葉に止まらず、まがきの菊、園生のはぎ、野路ゆけば、衣にすらん八千草の花まで、何れ哀れの限ならぬは候ふまじ。されば女郎花には、おちにきとちぎり、尾花がつゆには消ぬべきをなげき、槿花一朝の榮えには、松柏の年久しきちかひをうらやみ、秋蘭九畝の香りには、蕭艾の茸々たるを悲みし唐の、大和人

の、詩人、歌人も候ひけらし。地楡は透禪の稱、かるかやは菁道心、数ふれば何れも既に昔人の云ひ古し候ものゆえ、文してまゐらするも心ならず覺え候まゝ、趣なきには似たれ共、けふは美はしき姿の中に、恐ろしき毒のつゆをたゝへたる、三つ四つばかりかぞなへまゐらせ候。

### リンダウ

笹に龍膽は源氏の紋所は候。桔梗に似てさゝやかなる花、小笹に似て軟なる草莖、丈一尺ばかりにして、野末、山かげに笑み候を見れば、濃紫の五瓣の花冠、莖の頸、葉の腋よりむれ咲きて、佛にも奉りたき趣に候。そが根を漢家に龍膽、又は龍膽根と名け、健胃のくすりに用ひ候。さまで毒と申すにては無之、但しにがき事は一方ならず候。龍膽科の植物に之あり候。

### センブリ

センブリは當藥ともいひ、千度煎じてふりいで候ふ共、猶苦き味を殘し候さて、右様の名をつけ申し候。花はりんどうに酷似たれ共、うすくれないの匂あさあさ、その形また小いさく、葉は細く莖はやゝみぢかく候。之も古より民間薬に用ひしもの、健胃の效ありとて醫者もすてぬ者に候。同じく龍膽科。

### カブトギク

カブト菊はトリカブト、又は烏頭、又は僧鞋菊、又は附子ともよびなし候。花は中古武士の冑の如く、又ささか美しき鷄の、雄々しく擡げたる頭に似て、紫の色濃やかに、葉は乳兒の掌と類し、大さも亦その程に候。莖の高さ三四尺。都に在には、花賣りの翁がひさぐのみなれど、鄙にては、野山に自から生ひ出で候。此草は、葉も、花も、莖も大毒にて、いさゝか甜むるばかりの程、立所に命失ひ候べく、蝦夷の胃兒が獵矢とてその根を塗り候者には、猛きけだもののもは向ふ敵も、その場去らずに射取られ候ふ由。

　　蕃人の毒矢をとぐや棕梠の花

之ぞ世に云ひ傳へ候なる、かの附子矢に有之候。白

川附子と申すも、同じく烏頭の塊根を乾したるもの、根こそは最も毒多き處に候ふなれ。醫藥には神經痛などに極めて微しく用ひ候。毛莨科中の芍藥亞科。

曼珠沙華(石蒜)

マンジユシヤゲは秋の彼岸の頃咲きいで候ゆゑ又ヒガン花とも申し候。

まんじゆ沙華咲いて小狐の妻乞ひに
啼く夕ぐれを我は旅ゆく

秋の末、野ずゑ、路ぐろに、水仙に似たる葉を出し、やゝ狹く、やゝ長く、やゝ綠こき葉の、十計り群れ立ち候ふが、夏枯れて、秋の始、一二尺のすぐなる莖を出し、その頂に深紅の花五つ六つ簇り咲き候。花被は六つ、凡て細く、少しく下に反りかへりて、星下りと申す花火の樣にも似候か。莖には枝も、葉もつかず、細き圓柱の樣なるが數多竝び立ち、實のれば枯れて、直に新葉を萌し候。莖葉より出る液の甜むれば、舌まがるほど苦きゆゑ、又舌曲りとも名づけ候。莖も葉も花も殊には根も毒に候もの、根は鱗莖根とて、水仙の球の形に候。又の名、キツネノカミソリ、百合科目の石蒜科。

曼陀羅華(又テフセンアサガホ)

茄子花によく似たる花にして、其色白く、心ばかり大きくや候ふらん、一年草にかぞへられ、莖より枝へ、二た又、二た又と分れゆき候、鉅齒いちじるく大きなる葉の、對に出で候腋に、さき五瓣に分れたる管狀花、趣小なく咲きいで候。

莖の高さ三四尺、實ははじめは綠色にて、栗のいがの大きなる形いたし候。この草極めて毒つよく、實を食ぶれば心狂ふといひ、氣狂茄子とも名づけ候。されより製し候藥物を、殊に眼科醫に用ゐる由。花は夏の末、秋のはじめ實は今を時に候べく候。合瓣花目の茄子科の植物。

アサガホ

秋が花尾花くづ花なでしこの花
おみなへし藤袴又あさがほの花

こは萬葉集中の、かの七草の旋頭歌に候へ共、その槿とかゞなへ候もの、今の何れの花ならんは、諸説まちくにして、未だ定まらず候。旋花科の花にて、旋花、甘藷など之にぞくし、共に花も、葉も、實も、根も肖よりたる草々に候。

あさがほは實も、根も、峻下劑とて、之を呑めばはげしき通じを催し、幼兒らは心すべき事共に有之可候。

* * * * *

姿は美くしき花咲きて、内の眞は恐るべき、秋の草木の、世上におりふれ候は、おほよそ上の品々に候。此外、目に立つほどの花なき爲、人の手ふるゝ折は稀ながら、猶、たまくはうなゐ兒の、弄びとなり候ものから、人の親の知りてもあらなんと案じ候は、樒、**ドクゼリ**、蕁麻、**コンニヤク**の木などに候。

樒

神に手むくるは榊、佛にたてまつるは**シキミ**に候。樒の實をば、何に譬え候ふべき。八つの小舟、ひとつの水棹に舳をつなぎて、等しく八方に向ひたる。はた八葉の蓮華の、たゞ小くたゞ青く、たゞ花瓣の細きにも似候はんか、一つ一つの舟のも中に、小さき碁石を縦に包みて、可笑しき様に見なされ候。青き碁石と見ゆるはそが實にて、小舟と見えしはその莢なり、葉は榊葉に似たれ共、細く、長く、厚く、はたなつかしき薫りを放ち、後凋の操を保ちながら、幹はさまで大きからず候。花は春咲きて、又白蓮華の小さき様に候。

葉さへ、實さへ、枝さへ、根さへ、皆大毒に候ものから、幼兒のその實をたうべて、身まかれる話も一と度ならず候。實は秋に結びて木蘭科の木に御座候。

**ドクゼリ**

芹に似て頗る大きく、又**ニンジン**の葉に肖たるゆゑ、大芹、又毒人參とも申し侍り、醫家は之を矢鳩答とも唱へて、その實を間々藥物に採り用ひ候。毒の作用は**シキミ**に近くして、共に體冷え、呼吸くるしく、手足痙攣け、戰慄ひ、はては痲痺えゆくがまゝに、ひまもなく身歿り申し候。いろ白き花の小さく美く

しからず、數さはにむれ咲き候ふ事、この繖形花科の芹、胡蘿蔔、ミツバ、ドクゼリなどの目標と相成りをり候。莖は中空洞にして、所々に節を備へ節の上にはやゝ大なる葉鞘を帶び、丈高き草は數尺にごどくも之あり候。實は茴香の實に酷似候へども、彼は大毒、之は味甘く香り得も云はれぬ者に候ふものか、之より榨り候ふ茴香油は、貴人の厨に用られ候ふほどに候ふ。

つばらに論らへば、毒芹、大芹、毒人參皆異草にて、毒人參は歐洲にそだち、ドクゼリはやゝ小く、小河の隈、田のくろなどに生ひ立ち候ふもの、大芹は丈數尺もありて、山野に生ふる秋草に候、さばれ何れも恐ろしき者共に候ゆゑ、とりあつめては名さへ入れちがひ申し候矢鳩答をば、あめりかの蕃人は、征矢にぬり候由。

### コンニヤクの木

蒟蒻芋、又コンニヤク玉と申し候は、コンニヤクの木の塊莖にて、大きさ凡そ三四寸ばかり。形芋がしらに似候ふ者の殊には毒つよけれ共、そを乾かし、碎きて粉とし、粉を煮て糊とし、糊に石灰乳を混交て、型に入れて再び煮て蒟蒻とすれば、食ふに風味はあれど、毒はなき食物にかはりなり候。秋の苗に培かはれて、そのいもの漸く熟し候ふは、今日の日頃に候ふべく、一と尺の黑斑ある莖の尖に、短き枝四方に出でて、又其尖には手掌の樣なる葉、合せて二三十葉が程列びつき候、花は夏の初めに開け共、一枚の包葉に肉穗を圍みて、あるかなきかの小花、穗の上にひしと群れつきたる、花とは見えぬ姿に候。肉穗花目の、天南星科に、ぞくし、天南星、虎掌、ハンケ、芋、水百合又ミツバセリなど、皆同じ科入り侍の者に候。

### イラクサ

蕁麻はしば／＼オドリコ草と並び生ふれ共、そが見分けは容易ならず、唯花の頭のみこそ、互に時節もちがひ、姿もことなり候ゆゑ、たやすくわかち得らるべくも候へ。苧にはなほよく肖たり。こは葉も、

花も、實も、大抵同じき樣したれ共、たゞ刺草は、葉に、莖に、いづこも微き刺生ひて、その中に蓄き汁を貯へ、觸るゝ肌を、手をも、足をも、痛く刺し候ゆゑに、藪の下、籬のしたなど、此草生ふらん所は心すべく候ふなり。殊には、その痛みの、時をへて消えやらず、又云ひがたく苦しきものに候をや、いら草とマヲカラムシの事とは共に蕁麻科の植物に候。

* * * * *

猶しも花は春なれ共、秋さりて毒あるまゝの草木も少なからず、はた鬼ドコロの樣に、トコロツラ(トロロイモ)に酷似たるもあり、馬醉木の樣に園生の木とてめでらるゝもあり、および折れば、毒ある草木のことに心得置くべきも多かれ共、さのみやはとて筆を擱きぬ。

さころづら長根つるいも汁にすり
ひじりの坊にそなへけるかな

あだし言の數々を少しの興だにもそはせ給ひつらんは、此上なき榮と思ひまゐらすべく候。

(編者申す、此稿には、奇麗な線畫が添つて居りましたが、印刷の都合上殘念ながら省きました、此儀は何卒あしからず。)

## 鼾の話

醫學士　下平軍平

鼾は昔から口を開いて寢ると、呼吸するとき起る響で、別段病と云ふ程のものではないと、餘り世間の人も、醫者も注意しませんでしたが。追々醫學が進步して來た今日では矢張これも一種の病氣があるので起るといふことが明白になつて來ました。

扨て鼾には二種類あつて。一つは口を開いて寢るとき起るのと。他の一つは口を閉て居ても起るのとの二種であります。口を開いて起る鼾は重に成長した人で、頸の短かい人に多くあるやうでありまして、如何にして起るかと云ふと睡眠のとき、軟口蓋に弛が

起るので、呼吸を吸ふときこれが震動し所謂雷鳴の様な響が起るのであります。
大抵五六人に一人位時々鼾をかく癖を持て居るもので女より男の方が多い様であります、其理由は明白ではありませんが、男は體が強固であるので、呼吸も從て繁き爲に多いのではないかと思はれます。
口を閉ぢてゐて起る鼾聲は、充分確かな説明がつきませぬけれど、鼻腔が狹くなつて居て鼻で呼吸することが障げられるから、空氣が急に流込んで來ます其時軟口蓋が弛んで居ますから其空氣の流の爲に震動して、彼の様な音が出るのであります。
それで鼾聲が熟睡の時に一時間も長く續くと、咽頭の諸所に血液の流が多くなり、紅く腫れて來ます、其上に空氣が多く出入しますから水分が蒸發して乾燥して、何とも云はれぬ不快の感じがしますのみならず何か物が附著して居る様な、或は少しく痛い様が感がして朝起きたとき拂はむとしても、如何にしても除かれない様な感がするものであります。この感は咽頭に限りませんで下は喉頭や氣管にも變化が起つて來まして、咳嗽や噴嚏などが出る様になります。
口を開いて起る鼾聲は、大抵鼻の閉塞してをる人に起るもので、小兒をば扁桃腺の大なもの又は腺様増殖のあるのに多くあります。又成人では鼻茸或は下甲介肥大を持て居る人が多くあります。何故睡眠の時に起るかといふと、眠るときは頭の方が如何にしても、低くなるので、血液が多く行くから鼻が塞がる様になるからであります、其他では口を開いて眠るとき、咽頭の筋肉が又身體の外の部分と同様に弛緩すると容易に震動する様になり、所へ口を開いて寢る故に空氣が一時に流込むから起るのであります。
何故に鼾が害になるかと云ふと、第一に口で呼吸すると、空氣が鼻を通りし時の半分しか暖められず、又水蒸氣の爲飽和せらるることも少なく、且つ塵埃も濾されず、口や咽頭及で喉頭は蒸發が劇しくなつて、乾いて甚だしいのになると上顎の形が變てつ彎

曲が深くなり、或は小供の發育の盛なる頃であると胸格の形が追々變ることがあります。其他舌は常に苔で蓋はれ、味覺が障げられ、唾が出ることが少なくなります、又時々見られるのは吃訥の原因となつて居ることがあります。

以上の外實扶的里、麻疹、或は百日咳等の黴菌が侵入し易くなるのも亦口で呼吸するからであります。

夜尿も時々鼾をかく人にあるといひますが、これは確ではない樣であります。

鼻閉塞のある兒童は又時々父母を驚かすのは夜突然飛起きて、方向を失ふことで、父母は其何故であるか、判斷に苦しむことがあります。然しこれは好く注意して居ると今迄は開いていた口を閉づると、呼吸が出來なく絶息に陷らうとするので、眼がさめ飛起きるのであります、斯樣なことが度々起ると遂には喘息の樣な病が起つて來ます。

此外口で呼吸して起る害としては咽頭の加答兒であります。此病氣になると苦痛はあまりありませんけれども、咽頭壓迫される樣な、又は「いらいら」する恰も里芋の莖を食た時の感がしたり又時とすると、何か尖つたもので穿される樣な氣がしたり、其他物が咽頭に附着して居る樣な氣がします。或は非常に搔痒を覺えることがあります、從て度々乾燥せる咳嗽が起り、何程強くはらはむとしても猶ほ異常を覺えるので、神經が過敏になつて來るのも、決して不思議ではありません。

偖て最後に鼾をかく兒童に對して、父母たるものが如何なる注意をして宜敷いかと云ふに、先づ專門醫師に相談することが最も必要であります。而して醫師の助言を求めて充分に鼻の閉塞があれば之を治し又咽頭の異常物を除かねばなりません、又其他の異常がないとすれば、それは口を開いて寢る癖があるに相違ありませんから、口を閉ぢて寢る樣に工夫してやらねばなりません、其れには種々の工夫をした人がありますが、先づ最も宜敷のは、繃帶を用ふることでありますが、何れも目的とする所は下顎を引

あげて、口を閉ざせば宜敷のでありますから、決して特別の裝置が必要なのではありませんが、最も實用的と思はれる繃帶は「フランテル」で懸吊帶を作り中央に顎の尖端の入る位な孔を穿ち、それより四五センチ隔てゝ餘を二つに裂き先の孔には顎尖端を入れ、兩分した前端は後頭にて結び後端は耳の前にて交叉して頭上に結ぶのであります。

又同樣の目的に用ふるのではあるが、大凡幅一寸長さ一尺二三寸の繃帶二本作り一本には、前述の如き顎尖端の入る位の孔を穿ち、此所に顎の尖端を入れ後頭部に向ひて結び、他の一本は鉢卷の如く頭を廻りて結ぶのであります、而して交叉した所は安全針で止めると安全であります、是を用ゐること、始めの内は頗る不愉快な感がしますが、二週間も用ゐるこ追々馴れて來て不快な感も去り、口を閉ぢて、安眠することが出來る樣になります。

其他の注意としては凡て神經を興奮させることを避け兒童なれば特に注意して、戸外の運動をすゝめ寒暖に注意して便通を整理して手足の冷えぬ樣にし食物は榮養物を取らしむるは勿論でありますが、アルコール性飲料を禁じ其他咽頭を刺戟する食物例へば芥子唐芥子其他の香料は有害であります、又餘り鹽分酸味の强いのも咽頭を害しますから用ゐてはなりません。

## 扁桃腺の話（承前）

醫學士　神尾友修

次に扁桃腺の病氣が如何なる害をなすものであるか又た如何程恐しいものであるかを御話致しませう。

感冒の時には急性の扁桃腺炎を起し、此れは僂麻質斯、猩紅熱、心臟病、腎臟病等の恐ろしい疾病を起す原因となる事は、前號に御話致しました通りであります、此の外急性扁桃腺炎は中耳炎と申します病氣の原因となります。

中耳炎と申します病氣は、わかり易く申しますれば

「みゝだれ」で御座いまして、通常は激しい痛みと、高い熱とを以て始まります、痛みは咽から耳にかけて非常に激烈で、脈をうつ様な痛みであります、此の痛みは多くは二三日乃至一週間位續きまして、睡眠も充分に出來ません、食事も出來なくなります、そして其間に耳から膿汁が流れ始めますが、此の膿汁が流れだしますと、痛みは大層少くなります。此の「みゝだれ」は早い間に完全な治療を致しますれば一ケ月以内に完全になほりますが療治が不適當でありましたならば、慢性の耳漏となりまして、一生耳から膿汁が流れて居りますか、或は聾となり、或は膿汁が深く／＼と侵入して、腦膜炎を起して生命をも奪ふに至るものであります、斯様な恐るべき病氣も、元はといへば急性扁桃腺炎の治療を怠つたからであります。

急性扁桃腺炎が度々起ります時は、其度毎に扁桃腺は腫れます爲め、遂には腫れた扁桃腺が小さくなりませんで大きくなつた儘となります、之れは扁桃腺肥大症と申す病氣でありまして、種々の恐る可き、又意外な症狀を來すものであります。

扁桃腺は其のある所によりて種々の名をもつて居りますと同じ様に、扁桃腺肥大症も、其の肥大した扁桃腺の名によりて、種々の名をもつて居ります、例へば口蓋扁桃腺肥大とか、咽頭扁桃腺肥大、舌根扁桃腺肥大などといふ如きものであります、其中で咽頭扁桃腺肥大は、腺様増殖症とも、又「アデノイド」とも申します、扁桃腺肥大症の中で最も有害な最も注意すべき病氣でありまして、我々の殊に注意せなければならないものであります。

腺様増殖症即ち「アデノイド」は何故に特別の注意を要するかと申しますに、此の病氣は一般に四五歳より十六七歳の兒童、即ち學齡兒童に多い病氣でありまして、其の身體竝びに頭腦の發育最も旺盛なる時期に其の精神及び身體の發達成長を害し、身體を羸弱ならしめ、精神を遲鈍にし、甚しきは生れもつかぬ白痴としてしまふ事があります、之れ實に子

を持つ親の最も注意を要する所以であります。

「アデノイド」病は前に申しました通り三四歳から十五六歳の間に最も多いものでありますが、之れは三歳以上の乳兒にも來る事があります、若し乳兒が此の病氣に罹りましたならば、鼻から呼吸する事が出來ない爲め、充分に乳を飮む事が困難で、爲めに榮養障碍を起します、此の病氣はまた二十歳以上の人にも左程少いものでありません、然し通常は兒童の時に此の病氣に罹つて居た人でも丁年以上になりますれば、自然となくなるものであります、西洋では七十歳以上の老人にも此の病氣があつた事があるそうであります。

我國に始めて耳鼻咽喉科が出來た頃には、此の「アデノイド」は日本にはない病氣であると申した人もあります。併し、夫れは診斷がつかなかつたのでありまして、現今では、西洋人の統計と比較して、決して少いものでない事が明かになりました、西洋のある人の研究した所では、學齡兒童一萬五千人の中に九百二十人の患者が居つたといふて居ります、所が我國では、或る耳鼻咽喉科醫が檢査した所では、小學兒童千三十人中に四百三十餘人の「アデノイド」があつたと申して居ります、此の數は少し多きに過ぎますが、之れによりましても、如何に多いものであるかといふ事がわかります。

「アデノイド」といふ病氣は、即ち咽喉扁桃腺の大きくなつた病氣で、わかり易く申しますれば、鼻と咽との間に丁度苺の實の様な「できもの」が出來るのであります、でありますから、之れが大きくなりますれば、鼻の奥の所を塞ぎまして、鼻で呼吸する事が困難となります　それ故普通「アデノイド」をもつて居る兒童は、口を開いて口から呼吸して居ります、子供で鼻がつまると申しますものがありましたなら其の十中の九迄は「アデノイド」病であります。よく世の中の所謂耳鼻咽喉科醫と稱して居るものには、「アデノイド」の爲めに鼻のつまるのに、其の診斷も手術も出來ない爲め、鼻の中の手術をする人が少く

ありません、鼻のつまる原因は鼻の中にあるのでなく、鼻と咽の間にあるのでありますから、鼻内の手術をしても、何の效能もある筈がありません、同じ醫者にかゝるにも醫者を撰擇する事も亦容易ならぬ大事であります。

兒童は常に口で呼吸しますから、自然口は半ば開いて居ります、其の結果顏の形が次第に變りまして、所謂「アデノイド」型顏貌といふものになります「アデノイド」型顏貌と申しますれば、口が前に突出し、動物の樣尖りて、殊に其の中央の二枚の齒は前の方に向つて突出し、所謂「ソッパ」となつて居りますのが特徴であります、その上いつも口を半ば開いて居りますから、何となく痴呆の相貌を備へて居ります實際に精神の發育も鈍いのでありますから、自然其の容貌にあらはれるので御座います、猶ほよく注意して見ますれば、高度の「アデノイド」をもつて居る兒童は、顏は長く、下眼瞼がたれて居ります、上脣は大抵短く、齒は全體不整であります。

「アデノイド」の甚しい子供には、顏貌が變るばかりでなく、身體の外の部分にも種々の畸形を作ります例へば鳩胸と申しまして、胸の中央が鳥の胸の樣に突出して居るものや、或は之に反對に胸が甚しく凹陷して居るものもあります、脊柱が前後左右に曲る事もあります。

「アデノイド」は鼻の呼吸を妨げますが、そればかりでなく、「アデノイド」は鼻の病氣の原因となります此の「アデノイド」の爲めに起りました鼻の病氣は、まだ輕症の間は「アデノイド」さへ取り去れば、獨りで治癒するものであります、此れは鼻の病氣ばかりでなく、顏の形、身體の畸形なども、「アデノイド」を早く取り去れば、自然と恢復するものであります。

肥厚性鼻炎、鼻茸、其他種々の鼻の病氣もまた「アデノイド」の爲めに起る事が澤山あります、八九歲の子供が兩方の鼻から黄白な鼻汁を流して居りますのは、多くは鼻の病氣でありますが、斯樣な子供の

咽頭をよく檢査しますれば、大抵「アデノイド」をもつて居る事を發見します、之れは元來「アデノイド」がありまして、それが原で鼻の中に膿の出來る病氣が起つたのであります、田舍では鼻汁をたらす子供は健康だなどゝ申して、兩方の鼻から青い鼻汁をたらして居るものが澤山ありますが、之れは大きな誤りであります。

鼻の呼吸が妨げられて、口から呼吸する事になりますれば、夜間睡眠中は、咽喉の諸部分が弛みます爲めに呼吸と同時に種々の音を發します、兒童が睡眠時に鼾聲を發しますのは多く之れが爲めで、卽ち「アデノイド」が鼾聲を發する原因となるのであります、其れ故斯樣な小供の「アデノイド」を取り除きますれば、直ぐ其夜より鼾聲は消失致します。

其外口から呼吸する結果として、口、咽喉等が乾燥し、咽頭加答兒を起し、猶ほ進んでは、喉頭加答兒氣管枝カタール等の原因となり、甚しきものにては肺の病氣の原因となります。

近年或る一派の學者は、「アデノイド」は肺結核、「るいれき」等總て結核性の病氣の原因をなすものであると申して居ります、そればかりでなく、或る人は「アデノイド」其物は咽頭扁桃腺の結核であると主張して居ります、此れは一理ある事で、「アデノイド」をもつて居る小兒は肺病に罹り易く、また「るいれき」等にもかゝり易いものである所から、左樣な說が出たのであります、所が、之れは一部は事實でありますが、「アデノイド」は皆結核であるといふのは無根の說なのであります、「アデノイド」があれば氣管、氣管枝及び肺の病氣を起し易く、また、其外の種々の病氣を起し易くなるのでありまして、從て肺結核や「るいれき」が起るのであります、でありますから、「アデノイド」は此等の恐る可き病氣の原因となる事があるといふ點からしても、子の親達の注意すべき病氣なのであります。

「アデノイド」は度々申します通り、鼻の奥の所にありますものですが、丁度此の所には咽から耳へ通つ

て居ります道が御座います、此れはユースタとー氏管(略して歐氏管)と申しまして、耳の鼓膜の内側卽ち中耳の空氣を多くしたり或は少くしたりする爲めの道であります、鼓膜がいつも一定の位置を保つて居るのは、歐氏管から空氣が出入して居るからであります、若し此の歐氏管が塞るか或は狹くなりましたならば、中耳の中の空氣が不足致しまして、鼓膜は内側の方に凹陷するのであります、所が「アデノイド」は屢〻歐氏管の開口部を狹める事がありますので、「アデノイド」のある兒童の耳は多く耳の病氣をもつて居ります。

四五歳から二十歳位迄の間に、耳だれがなくて耳が遠いとか、耳が鳴るとか申します人がありましたなら、多くは「アデノイド」病をもつて居る人か、或は以前に「アデノイド」に罹つた事のある人であります。

「アデノイド」はまた其外種々の耳の病氣の原因となる事があります、急性の中耳炎も、慢性中耳炎も、「アデノイド」が原因となつて起る事があります。

「アデノイド」の注意せなければならない病氣であるといふわけの一つは、前に申しました頭腦の發育の遲れるといふ事であります、下平醫學士は小學兒童の「アデノイド」をもつて居るものに就て研究せられ學校で成績の劣等な小供は多く「アデノイド」病を持つて居るといふ事や、感化院などの不良少年も多くは「アデノイド」病に罹つて居るといふ事などを確められ、其等「アデノイド」患者の精神の働きを測定致されました。

「アデノイド」のある兒童は、頭腦が全體に鈍く、或る一つの事に專心注意を向ける事が困難であります卽ち注意が散漫し易いのであります、でありますから、おちついて勉強したり、或はまとまつた仕事をする事が出來なくなります、それに記憶力は甚だ劣等でありまして、兩親の名を忘れ、其の住んで居る家の町の名を忘れる、學校の課業の樣なものは全く記憶する事が出來ません、計算の能力は殊に不得意

で、極く簡單な計算も出來なくなり、親兄弟は勿論自己の年齢さへわからないのがあります。

斯くの如く記憶も計算も出來なくなるものでありますから、學校では劣等生となり、他の劣等生と交はる様になり、知らず〳〵の間に良からぬ遊戯、惡戯を覺え、遂には不良少年の仲間入りをするに至るのであります、親は其の子の愚鈍を怒り恨むも、其の原因はと尋ねますれば、責めは親自己にあるといはねばならぬのであります。誠に誡めなければなりません。

「アデノイド」病の及ぼす害は之れ丈けには止りません、此外に種々の症狀を呈しまして、屡々其の原因が何處にあるものかを知るに苦しむ事があります、此の際「アデノイド」を取り去る時は數年來の持病も一朝にして治癒する事が少くありません、例へば時時衄血が出て困る小供が「アデノイド」の手術後全く治癒する事は珍しくありません。

また小學兒童で、頭痛に苦しみ、種々の藥を服用しても、少しも效力がないものがありますが、斯様な子供は大抵「アデノイド」をもつて居りまして、之れを取り去れば、さしも頑固であつた頭痛も數日の中に消散する事が少くありません。

其外頭痛ばかりでなく、種々の神經病の原因をなす事があります、例へば神經衰弱とか「ヒステリー」とか、或は舞踏病と申しまして、たえず手足を動かす病氣などが起る事があります。

此所に少し妙な事は、甚だ頑固な夜尿症（ねしようべん）が、「アデノイド」を取つて治癒する事であります、此の夜尿症の原因は全くわかりませんが、兎に角七八歳以上の子供が夜尿をするといふのは、身體の何所かに病氣があつて起るものに相違ありません、所が其の原因となる所の病氣は多くわからぬもので、從つて、其の治療の方法もありません、所が斯様な時に「アデノイド」症が偶然發見せられましたならば、其れを取り除く時は、夜尿は其日からなくなります、私は十五歳の女學生で隔日位に不淨をす

るので困つたもので、「アデノイド」の手術を致しましたが、此の患者は手術する前迄は度々夜尿を致しましたのに、手術してからは、今日迄一度も夜尿を致しませんそうであります。

「アデノイド」はまた言語、發音の障碍を起します、即ち音聲が鼻にかゝりまして、所謂鼻聲となりますまた、「どもり」も「アデノイド」症の爲めに起る事があります。

「アデノイド」症と申しますものは、斯様に千種萬端な症狀を惹き起し、また容易ならぬ大害を我々の心身に及ぼすのであります、でありますから、其の存在が確められましたなら、何時でも手術をせねばなりません、此の手術は熟練した、專門醫師の手によりてなさるゝ時は、決して危險なものではありません、唯其の小兒が甚だ衰弱して居るとか、或外の病氣に罹つて居るとかいふ場合には注意せねばなりません。

此の病氣は手術さへ施せば、容易に全治致します、そして、身體の狀態も恢復致しますし、注意力、記憶力などもずつとよくなつて、今迄の劣等生は却て優等生になる事も出來るのであります、併し、身體、精神の發育が既に甚しく害せられてしまうたものには「アデノイド」を取りました所で、完全に恢復する事が出來ません、それ故手術は出來る丈け早い方が宜しいのであります、此際孤疑するは子を愛する親の取る道ではありません。

私共は患者の父兄より屢々「何時手術をして宜しいか」「少さな子供でも手術が出來るか」等の質問を受けます、之れはいふ迄もなく、「アデノイド」がある事が確められましたなら、何時でも早く手術するのが一番であります。夏であれ、冬であれ、一年中手術の出來ない時はありません、時候が暑いからさ申しましても、手術が身體の健康を害ふ様な事は殆ど御座いません、患者の年齢なども、幾歳の子供でも危險なしに手術する事が出來ます、手術が危險でないのみならず、此病氣は放置すれば顔面の形に異

狀を生じ、身心の發育を害しまして、後には恢復が困難となりますから、早くするといふ事が最も肝要であります、西洋では生れてからまだ一年にならない兒にさへ此の手術をやつて居ります。

手術と申しましても之れは極めて簡單でありまして藥をもつて咽頭全體をしびれさして、ある機械で「アデノイド」のある所を一寸なでると、すぐ「アデノイド」は取れて參ります、少し熟練した人には少しも危險は御座いません、痛みもありません、血も甚だしく出るものでは御座いません。

「アデノイド」を起す原因は何でありませうか、之れは諸姉始め誰でも知りたい事で御座いますが、殘念な事には、醫學者の間にも十分にはわかつて居りません、或は其の人の體質によるもので、纖弱な小兒に出來るものであるとか、或は結核が其の原因であるから、兩親か叔父叔母に肺病の人があれば、其子は「アデノイド」にかゝるものが多いとか、種々の説が御座います、私共の考では、感冒が最も重な原因だらうと存じます、感冒の時には此部も充血し、脹れるものでありますが、それが度々ありますと遂に「アデノイド」となるのでありませう、でありますから、身體の弱い人は感冒に罹り易い所から、「アデノイド」に罹り易いのであります。

此病氣は遺傳するものであるかと申しますに、之れも然りとも、否ともわかりません、併し、「アデノイド」をもつて居つた親の子供には、「アデノイド」症に罹るものが多い樣であります、また、一家族で、一人が「アデノイド」をもつて居る時に、其兄弟を檢査して見ますと、多くは兄弟の中幾人かゞ、此の病氣に罹つて居るのを發見する事が度々であります。

（以下次號）

## 美容法（承前）

### 顔面の特殊按摩法

以上申述べました一般の顔面マッサージに於きまし

ては一々、顔面筋の經過に就て顧慮せずとも宜かつた、或は少しく注意すれば澤山でありましたが、特殊マッサージになりますと、是を顧慮しなければならぬ、少なくとも注意をすべきことであります。この特殊按摩法の實地上必要な事は、既に説明致しましたが、只尙ほ二三の修正的注意を申上げることゝ致します。先づ第一に注意すべき事は、顔面の特殊マッサージは、何時でも先づ一般の方法を行つた上に施すべきことであります。これが出來て居れば、大概の場合には、特殊マッサージは餘計なものであると云ふことが分かります。少數の場合の外は、美容按摩法としての特殊顔面マッサージは全く餘計なものであると云ふのが私の立前でありまして、通常皺は鉛直に皮膚を撮み上げて、これを按摩し、或は幾度もその上を摩擦して皺を平にしやうと努められますけれども、この技術は感服は出來ない、その效のあるのは、甚だ僅かの場合であつて、多くは寧ろ有害である、何せならば、これは顔面筋總體の生理的共同作用を無視した仕方であるからであります。大抵の皮膚の溝は、例へば鼻翼から口角に亙つて居る溝の如く、概して平滑に出來るものではないのであります。これは既に若い娘にもあり、年を取つてから、却て若い時よりも目立なくなることも往々御座いまして、家族的に起り、恐らくは生來のものであります。

麻痺に對するマッサージは、常に醫師がそれ〳〵の處置を施すべきものであります。

顔の皮膚病の中では、皮脂漏及び面皰が特にマッサージに適して居ります。これは、前にも申上げた通り、脂ぎつた汚ならしい皮膚をして居る若い男女兩性に起りまして、顔にブツ〳〵が出來ては引込むものであります。そのマッサージは、至て簡單で、只前以てアルコールで拭ふやうに洗つた後に、示指と拇指を用ひて、しつかり撮まみ、又矢鱈に揉めば宜いのであります。但し摩擦的運動は一般に不必要で、只口から鼻の側壁に至る所の鼻口皺襞には用う

ることを勸める。この病氣に於きましては、時として顏及び其他の處に稍ゝ大きな結節を作ることがあります。これに似て居るが、然し、その膿を持たないことゝ、その周圍が可なり廣く焮衝的に腫れるので、これとは元來異つて居る所の結節が、婦人、就中老年の婦人で、餘り肉食をし、從つて血液中に尿酸の多い人に出來ることがあります。斯樣な結節は、示指を以て、その周圍に環を描き、近い所は、强く、隔たるに從つて弱く壓を加へてマッサージを施します。結節そのものを壓したり擦つたりすることは通常害を及ぼしますが、只往々、內容ある囊をなす時には、これを挫ぎ、或はこれよりも良いのは細い刀を以て口を開いてその內身を搾り出してしまはなければなりません。又黴毒性の、乾燥した、結節狀の顏の發疹も、大變マッサージに依て效能のあることもあつて、實際その治癒を早めるやうであります。

其他の特殊マッサージに就ては、尙ほ次の事柄を申上げて置きませう。

前に述べました乳房と頸のマッサージは、弛んで居る乳房を張るやうにし、小さな乳房や頸を都合に依て幾分大きくする爲に用うるのでありまして、一般に乳房と頸の格好を善くするのであります。垂下つて、弛んで居る乳房を何うか本のやうに張のある半球形の乳房にしたいと云ふ希望も往々御座いますがマッサージだけでは、これは、目的を達する譯には參りません、一定の體操的練習と、それから食餌法と藥劑の力とを借りて、脂肪を殖して膨れて見えるやうにしなければなりません。此外に別に方法とて御座いません。又これとは反對に、大きな乳房を小さくし、太い腰の脂肪を除きたいと云ふ望も往々ありますが、これは强いマッサージを施して、餘程その目的を達することが出來ます、但何時までも其效驗を續かせようと云ふのには、本々そう肥るやうになつた原因を去らなければ駄目であります。それで、これには嚴重な食餌の處方と、その生活法を一

變すること丶、體操的練習法とが必要なので、自分獨りで療治することは六ケ敷いことであります。それで先づ豫め此事を承知して居て、一つマッサージを行ひ、只特別の場合に限り醫師の相談を受けると云ふことにしたらば宜からうと思ひます。

今このマッサージの章を終るに臨み、もう一度その重要なる意義に就て申述べたいと思ひます、と云ふのは、前に、冷水は美を保續する所の最良藥であると申しましたが、マッサージは已に多少衰へた美を恢復する最良藥であると云ふことであります。然るにこのマッサージには餘り重きを置かれぬと云ふは遺憾なことであります。普通の化粧本には、何の頁を見ても矢鱈に化粧品や、その使用法などに就て說て居りますが、一向役に立たぬ。又美容法院とか美顏術協會とか云ふやうな所から、種々のマッサージの道具が賣出されて居りますが、これ亦玩弄物に過ぎません。それで私は、もう少しこのマッサージを役に立つものに仕上げたいと思ふて居ります、只今の所では未だ不完全を免れませんが、種々のマッサージの技術は、尙ほ大に發達する見込があると信じます。

# 育兒

## 乳母傭主の心得（承前）

宮本仲

若し乳母が、根性曲りとか、喧嘩好きとか、或は頓間だとかいふ時分、傭主たる人が其乳汁の善良なる爲め、濫に解傭をするも惜しいと考へますと、自然其意を悟つて、乳母は增長の念を生じ易いものであります。然る場合に愛兒の爲め愛兒の爲めと、所謂人質を出し置く爲め乳母の增長を制御る事の出來ぬ樣に成つては困る、此時には矢張乳母を相當に窘しなめて宜しいと思ふ、併し乳母に對しては、猪口猪

口と口穢く小言らしい事をいふのは甚だ能く無い、特に根性曲りの者には適當せぬ、又た頓間な者にも往かぬ、頓間な者に數々小言をいふと威ぢ恐れて、精神感動を起し易く、根性曲りの方は激して、同じく精神感動を起し易い故に頓間の分には平生の事を能く視て居て、其著しい場合に缺點を丁寧親切に教へて遣る樣に爲るが宜しい、又た根性曲りや、喧嘩好きの短氣ものなどには、平生彼の擧動を子細に認め居つて、愈々彼れが心底から申譯なしと思はねばならぬ程の缺點を顯はした時、儼然として譴責し、且つ溫和に教へ諭すのであります。如何に短氣な根性曲りでも自分に申譯無き程の落度の出來た時叱責されますれば、決して怨み怒り等不滿の念は起さぬものであります、加之ならず儼然と譴責した上に溫情を加へて教諭したならば、恩威に服して必ず順從に歸するものであります。彼れ等迚も同じく人間でありますから、自分の行爲に就て善惡を諭されゝば、多分了解するに違ひは無い、但し此譴責を加ふといふ場合には、必ず朋輩等他人の閲見し居らぬ場所に於て爲されねば往かぬ、小人といふものは叱責を受る時他人に對して大に羞ると同時に、其主人を怨み、反て我意を張りて、遂には譴責、教訓、兩つながら效力全く無きの結果に歸して仕舞ふ事がある、故に頭から嚴しく叱責を加へぬ樣、そして彼の些細なる過ちのみである時は大目に看逃し置きて、大なる落度ある節を待つて叱かる樣に爲るが善いと思ふ。自分に大なる落度のある時、其過を咎められます分には、存外閉口して不滿を感ぜず、從て精神感動をも起さずして、效力は却て著大に顯はれるものであります。乳母を叱かるのは、乳の爲め精神上から宜しく無いとか、又は愛兒に苛らく當つて不利を招くものだとして、妄りに乳母の機嫌のみ伺つて居る人がある、是れは甚だ誤まつた仕打だと思ふ、乳母に惡しと認むべき缺點があらば、止むを得無い、唯今申した如くに譴責して無效と思ふ餘り增長させるのも善く無い、併し唯だ其仕方のみだ即ち叱責し得る

機會と、叱責する場所と、又た譴める仕方が能く無いと往かぬ、此三つを御勘考被成て、適當に御取計らひあればそれで宜い、前に申した通りに之れあり度です。今一つの例を御笑草に陳べませう、即ち或る紳士の家に、初孫さんが出來た、實母さんが薄弱で乳汁が足らぬ、そこで乳母を求められて私が試驗した、此乳母は大阪者で、年齢も、體質も、乳性も乳量も誠に打ち揃ふて善良申分無しで傭入れられた、所で乳母は原より乳汁の爲めに傭入れたのだから乳汁に障る樣な事は一切避け度い、そして衞生に適した事ならば何でも行はせ度い、精神感動は全く避くる樣にと中々行屆いて世話を燒かれた、朋輩は勿論老女とでもいふ取締役までが、先づ乳母の機嫌を取る樣に乳母の我意に任かせて、衞生法以外の事は餘り世話燒きも無かつた、然る處乳母の奴段々增長して、最初溫和の假面を作つて居つた分を、段々脫ぎ來たつて甚だ莫連の態を顯はし初めた、就中著るしい事は、夏期に入りましては、丸裸脫ぎで團扇遣ひ、奥樣の前も、朋輩の前も構はず、恰も角力取りの樂屋入りの樣の態であつた、それを朋輩や老婢が宜く無いと忠告すると、忽ち答へて曰ふに、そんな苦勞や遠慮して乳母奉公を爲るなら止めた方が善い、云々茲に於て奴婢は其事情を私に訴へますから、私は兩三度忠告を與へました、然る所私に對しては大に後悔の風を粧ふて、謝罪致します、然れば改悛したかと思ひますと、又た日ならずして前の狀を繰返へす、其甚しきに至つては、夜間寢るのに腰卷きのみで腰下に單衣位を纏ふ位で、他は赤裸々の狀態である、側の方からは東京は大阪と風土が違ふから、時候に障りては乳汁を惡して往かぬと諭し、又た屋敷は屋敷の風があるから、愼まねばならぬと敎へなど種々注意を與へましたが、更に服從致しません、私も度々諭したが聞かぬ故數々解傭をと思ひ、其心決を促しましたが、餘り乳が善くて惜しいものである故、其無行儀を忍びて、尚一月尚半月と延し置きました、然樣成りますと彼は足元を伺ふて愈々

增長致し、殊に追々と食事の禁忌を犯して、不攝生を初むる樣に爲りました故、終に止むを得ず斷然放逐致させました、尤も其小兒は三月生れで其秋九月と爲りました故、年齢も時候も最早牛乳で宜しいといふ頃に成りましたから斷行致しましても小兒には毫も障りが無く濟みました、斯樣な頑迷の乳母と來ては實に困る、夏中裸體で睡眠するから、風邪にでも侵されては乳汁に影響すると心配を致しましたが、頑強丈け病も無く、夏季を過ぎました、此等は乳母で最良の乳汁があるから、一月も二月も勘辨に勘辨を致したのですが、若し下婢等傭人であつたならば、一日も忍ぶ事の出來た女ではありませんでした、隨分極端なる例であります、尚擧ぐれば種々のものがありますが、諄々しければ止めに致します。

（以下次號）

# 學校頭痛

七八歳から十五六歳までの小學校の兒童が、往々頭痛を訴へることがある。實際これを調べて見るとなか〱多い、大約三分の一乃至五分の一位は頭痛を訴へるやうである。學校に入學したばかりの小さな兒童は、實際頭痛がしても、只何となく變な顏をして、讀書や算術を厭やがり、又實際出來が惡くなるけれども、別に頭痛がするとは云はない、頭が變な具合に感ずるには相違ないが、頭が痛いとは訴へない場合も尠なくない。これが度々起つて、やがて所謂習慣性の頭痛となると、只教場に這入つたゞけで既に頭が重くなる。斯うなると、無論覺えが惡くなる。覺えが惡くなるから、他の生徒と同じやうに進んで行くことが困難になり、人よりも頭を苦めて勉強しなければならぬから、そこで益々惡くなる。成績も劣つて來る、從て面白くない。斯う云ふ譯であるから、小兒の頭痛は、その教育、發達の上に容易

ならぬ影響を及ぼすもので、決して等閑に附する譯にはいかぬ。特にこれは男の兒よりも女の兒に多い。
この所謂學校頭痛の原因は何處にあるかと調べて見るに、なか〳〵單純でない、種々樣々の事柄が原因になつて居る。第一その小兒に取つては、學校の敎授課目が多過ぎたりすることがある。特にその小兒の元來不得手な學課を骨折て學ぶ時。不正の姿勢で一時間近くも、頭を垂れて作業をし、又は講義を聽く時。敎室の空氣が惡くなつた時、特に火鉢や煖爐を焚いて、室內の空氣を不良にし、溫度の不平均を來す時、明りが不十分で、眼を疲らす時、唱歌や音讀に依て聲を出し過す時。體操や遊戲をして、殊に自分勝手に鬼ごつこなどをした後、直ちに敎場に這入つて六ケ敷い學課に取掛る時、數へ來れば幾らも兒童が頭痛を起す種になることがある。尙ほ窮屈な著物を著て居るとか、便祕して居るとか、靴や足袋が濕つて居るとか云ふことがあれば、頭痛を起し易い。又耳、鼻、眼等に異常があれば無論頭痛を起す。

次にこれが豫防及び治療上の注意を述ぶれば、先づ第一に、學校の選擇で、不完全な學校や幼稚園へは入れたくない。即ち學校衞生學の原則を無視して居るやうな建築で、校醫も居らず、居つても名目ばかりで、注意が行屆かず、假令校醫が注意して種々衞生上の建議をしても、殆ど體育の何たるか、衞生の何たるかをわきまへず、顧みざるやうな無智無責任の敎員に依て經營されて居る學校や幼稚園へは、無論大事の子供を托する譯には行かぬ。今日では幸斯樣な學校は無いかも知らぬ、無ければ眞に幸である。併し學校だけが幾ら完全であつても、家庭が非衞生的の亂暴な家庭では致方がない、實際學校は完全とは云へぬ迄も、近頃では餘程衞生上の注意が行屆くやうになつて來て居るから、その兒童に身體的の故障があれば大部分家庭の罪に歸せねばならぬ。他の子供よりも抽んでよかれ、賢かれと祈るは、親心の誰しも然るべきことではあるが、さなくとも今日小學校の課程の過重を云々して、可成自然に、そ

の小さな軟かい腦髓を苦しめずに教育しなければならぬと云ふて居るのに、學校から歸つて來るや否や、直樣、復習をせよとか、自修をせよとか、それが濟まぬ中は遊ばさぬなど〻、丸で大學校の學生あたりを責めるやうな家庭教育を實行し、甚しいのは、疲れ果てた小兒を捕まへて、寢る前に明日の下調などをさせて、得意になつて居る愚昧な親も世の中にはある。全く小兒の身體も精神の狀態も顧みない、徒妄に讀書をさせたり、算術を考へさせたりすれば、それで小兒が立派に進步し發達するものと思ふて居るのである。これは大なる考違ひで、小兒を害すればとても爲になる筈はない。孟子の所謂苗を助け長せしむる者の類で、延びよ〳〵と抽拔いて枯らしてしまふのである。

凡そ小兒の教育は、學校のみに一任する譯には行かぬ、是非學校と家庭と連絡を保つて行かなければならぬ。殊にその年齡、又各小兒の身體精神の强弱に由て種々斟酌して行くことが必要である。小兒の生理、心理を無視しては、教育も何もあつたものではない。兎に角小兒がその軟かな腦髓を痛めぬやうに、自ら喜び樂んで、自然に身體も强健に、智惠づくやうに導かなければならぬことである。

大分餘計な話に渡つてしまつたが、學校頭痛の豫防に就て簡單に述れば、學校に於ける事は、前に述べた不完全な點を除かなければならぬは勿論のことであるが、尙ほ家庭に於て注意すべきことが尠なくない。卽ち茶、咖啡、麥酒、葡萄酒、特にブランデーなどを混ぜたコ、アの如き、總てアルコール性の飮物を與へてはならぬ。又胡椒のやうな刺戟性の藥味を與へることも避けなければならぬ。前にも云ふ通り、濫りに勉强させることは、身體の爲にも精神の爲にも大毒である。就中小說雜誌の如きものに讀耽らすは宜しくない。況や寄席、劇場、近頃では活動寫眞の如きものを見て、さなきだに晝の間學校で疲らした、小さな腦を、斯樣な烈しく眼と精神を刺戟し興奮させて、夜深かしをし、睡眠を不安にするこ

とは、最も忌むべきことである。又家に在て机に向ふ時にも、矢張學校と同様に、姿勢を正しくして讀書させることが肝要である。室の暗いのも宜しくない。締切つた室の中に炭を焚いて閉込めて置くのも惡るい。尚ほ、近視、遠視、亂視など〻云ふ眼の屈折機に異常があつて、その爲に頭痛を起すことは屢〻ある、小兒では一寸この原因が潜で居て氣がつかぬことがあるから、他に原因と認むべきことが無くして、讀書の際に少し續けると頭が痛いと云ふ場合には、專門の醫師に就て檢査して貰ふ必要がある。其他耳特に鼻に病氣があれば、能く頭痛を訴へる、又咽頭の病氣から頭痛を起すことが屢〻あつて、此等は何れも頭痛の原因となり、兒童の身心の發達を妨げ、これが爲に往々痴呆の様な顔貌を呈し、實際精神の魯鈍な子供になつてしまふこともある、併し此等は何れも治療してその原因を除けば、復び賢い活潑な兒童になるものであるから、これ亦大に注意を要することである、尚ほ榮養を善くし、便通を整へ、呼吸を十分にし、神經を丈夫にし、凡て規則正しく、適度に運動遊戲を行はしめて、常に兒童本來の快濶な性質を失はせぬことは、養育者の義務である。

## 小兒臍の病

母の胎內に宿て居る十ヶ月間は、唯この一條に依て血脈を繋いで居る生命の綱たる臍帶も、月滿ちて一度オギヤーと云ふや否や、血の循りは、がらりと變つて、鮮紅な血と、暗赤色血、即ち動脈血と靜脈血が、ちやんと分れて尋常に身體の內を循環ることになると同時に、只の今まで脈々として動悸を打たして居つたものが、ぱたりと止むで、さしも大事の緒綱も、もはや無用の長物と化し去り、全く切離されて、茲に始めて母體との直接の連絡が斷たれて、一個獨立の初生兒として、此世の仲間入りをすることになるのでありまして、その切離されてお腹の中央に殘つた南瓜の蔕然たる臍帶の遺物は、自然の妙

機に由て、三日乃至一週間、大約五日程經る間に、ムミフィカチオーンと申して、何の事はない、彼の埃及國の墓の內から堀出して博物館あたりに陳列されて居る所の木乃伊、あゝ云ふ風に腐りもせずに、自然黑く硬くなつて、枯れ落ちてしまふのが普通であります。所が場合に依ては、特に虛弱の初生兒に於きましては、その脫離がこれよりも遲れて、木乃伊のやうにはならず、反て土左衞門のやうな風に、じく〳〵したまゝで落ち、或は少しく黑く腐れかゝつておちることがまゝあります。

臍帶の脫落た跡は、赤くなつて少し分泌物がある、殊にこれは丈夫な小兒の方が著しいやうでありますが、これが增すこともなく、そのまゝ固まつてしまへば、それで宜しいのである。所が、段々赤く腫て、分泌物が增すやうであれば、これは構はずに置く譯には參りません、これから漸次膿を持つやうになり、臍の周圍の皮膚までも紅く爛れて、小兒が熱を出し、衰弱致しますから治療を加へなければなりません。

又斯樣のことがあれば、なか〳〵お臍が固まらず、その間に臍の底の方から赤い色の肉が盛り上つて、丁度猴子か桑の實の樣なものが、出來て、觸ればそれから血が出ると云ふ、眞に痛々しい有樣になりまして、益々お臍が固まらぬことになつてしまひます。これは何時まで待つても容易に治癒るものでありませんから、一層早く除つてしまふのが規則であります。又一寸これに似たもので、內の方まで深く牽牛花の樣に囊になつて居ることも稀にあります。

其他生れてから二週間或は三週間も經つてから、お臍の部分が赤く腫れて、膨れ出して、非常に澤々して、丁度薄い護謨布を指に被せたやうな有樣で、張切れはせぬかと思はれる位で、觸れば嘶立てる、こういふのが屢々あります。これが卽ち臍炎と云ふものので、小兒は熱を出して、不穩になり、乳も餘り飮まず、動けば痛いから、呼吸を淺くして、脚を縮め、從て榮養も惡くなり、大に衰弱を來します。これも早く氣がついて手當をすれば、大抵四五日で消退

ものでありますけれども、不潔にして構はずに置く時は、往々これから廣く蜂窩織炎と云ふものを起して、腹から背中までも腫れて、その爲に小兒は衰弱して遂に死亡するやうなことにもなります。その他丹毒とか實布的里とか、壞疽とか云ふやうな恐るべき病氣が手傳をして、小兒を殺すことが間々ありますから、決して油斷はなりません。

此外にも臍の動脈炎とか、靜脈炎とか申すものがありまして、これは一寸見た所、お臍には餘り甚しい變化は無いやうであるが、これからずつとお腹の内の方まで、お臍の筋に傳はつて焮衝が蔓こり、その爲にお腹が非常に膨れて、黄疸を起したり、又は熱が高くなつて、痩せて、甚しく衰弱して死亡することもあり或はさ程のことゝも思はざる中に、遂に取返しのつかぬことになる場合も尠なくありません。

孰れにしても、右に申述べた種々の臍の病は本を糺せば、皆これ不潔と云ふことが第一の原因になつて居ります。卽ち醫師や產婆も、どうかすると赤坊を取扱ふ時に、臍の注意が十分でない爲に、手や器械から、うつかり不潔物を移すやうなこともありませうが、**大抵は家の人の罪であります、**と云ふのは、產婆は普通規則通りに、臍帶を結紮し、淸潔にして消毒ガーゼを以て法の如くに包むで參りますが、衛生思想の缺けて居る養育者は、その意味が分らず、若しそれがずれるとか取れるとかすれば、今度は不潔な襁褓を以て無雜作に、直接お腹を包むでしまふ。餘程注意してさへも失策が起るものを、斯樣なことをして腐らすことのあるのは怪しむに足らぬ、臍帶殘留物の脫落れた直ぐ後も、十分固まらぬ間は常に危險があるのであります。單に不潔と云ふては、能く意味が解らぬこともありませうが、凡て醫學上で不潔〳〵と申しますのは、主として焮衝を起したり、膿を持たしたり、其他の病氣を惹起すやうな黴菌が著いて居ることを申すのであつて、假令塵がべつたり著いて居るからとて、あながち不潔とは申しません、又いくらお化粧をして、お白粉をべた〳〵塗つ

たからとて、それを清潔とは申しません。眞に清潔と云ふのは、皮膚ならば塵も垢もなく、木地の皮膚で、一匹の黴菌も菌いて居らぬことであります。それでありますから、臍帶は清潔に保たなければならぬ、不潔にしては不可と云ふ場合には、單に黄色なものが著いて居ないから、この襁褓は清潔であると云ふて、それを以て直接に臍帶を纏いては宜しくないのであります。宜しく產婆や醫師の言ふことを守つて、出來得るだけは規則通りに清潔にして、早く乾いて能く脫離るやうに、脫離た後も能く固まるやうに、場合に依ては藥の粉をつけ、又は膏藥を塗る等、凡て醫師や產婆の心盡しを無にしないやうに希望致します、これが前に擧げた臍の種々の病氣を豫防する第一の心得であります。

次に右申述べた臍の病氣とは異つて、別に膿を持つたり、腫れたりは致しませんが、初生兒の臍から血が出てなか／＼止まらぬことがあります。これ亦危險なもので、どうも死亡することが甚だ多い。即ち未だ臍帶の落ちぬ前、或は落ちる時、又は落ちてから、その創痕より血が出るのでありまして、始めは唯だ少しばかりと思ふて居る中に、澤山出て心配をして居る間に、再び弱くなり、又强くなり、斯くて段々小兒は蒼白くなつて、復び生れぬ前の人に歸つてしまふのであります。大抵はたら／＼と出るのでありますが、稀には、しゆうと迸り出るのもあります。これは通常右の病氣の有様より單に臍出血と申して居りますが、その原因には種々ありまして、最初生れると直ぐに、臍帶の結び方が惡かつたり、或は死んだ様になつて生れて、漸く息を吹き返した小兒などに起ることもありますが、又生れつき、出血性の素質を遺傳して來ることもあり、屢々親讓りの黴毒の爲に、斯樣な無慘な目に逢ふ哀れのものも御座ります。孰れにしても、危險の症でありますから、斯樣の傾あることに氣が付いたならば、用捨なく醫師の治療を受けて、何とか取り止める工夫が肝要であります。

最後に能く何人も御承知の臍ブルック、所謂出臍のことを一寸申上げて此稿を終ります。普通に申します所の出臍の外に、先天性の臍帶ヘルニア或は羊膜臍などゝ云はるゝ甚しい大出臍が御座いまして、これは丁度切腹したものと同樣、薄い膜は被ぶつて居りますけれども、腹の皮膚が開いて居つて、其處から腹綿がはみ出して居ると云ふ大變なもので御座います。その現はれ出たる臟物は、通常腸でありますけれども、時には肝臟、脾臟、腎臟、膵臟、胃に至るまで一切の臟物を、さらけ出すと云ふ慘憺なるものがあります。斯樣なものは、大概その他にも兎脣があつたり、足が鉤なりになつて居たり、腦髓が半分しか無かつたり、脊骨が破れてその中の脊髓が、はみ出して居たり、樣々の畸形があつて、云はゞ人間の出來損ないでありまして、無論生命を保てませんが、その餘り甚しくないものは、極稀々には、又どうかして治癒るやうなこともあるそうで御座います。斯樣な無氣味なものは、先づ差當り吾々には用がないことゝ致しまして、只神樣の惡戯の中には、こんなものもあると云ふことだけを御紹介致して置きます。然るに、出臍と云へば、醫學の事を御承知ない方でも、大抵知つて居られる、即ち斯樣な俗稱ある所以でありまして、一寸妙な格好をして居るものであります。妙な格好と申しても、實際御覽になつたことのない方には分かりますまいが、通常のお臍の所が、棗或は拇指位も少し大きいのは鷄卵位にひよいと膨れ出して居りまして、これを觸つて見ると、軟かで而かも彈力がある、指を以て壓しても小兒は痛がりません、大抵笑つて居ります。これを徐徐に縮めて押込むやうに致しますと、ぐう、ぐるくると云ふやうな音がして平になつてしまひます。更に指を抵入れるやうにして見ますと、お臍の所が輪の如く腹に孔がありまして、其處から出て來ることが分かります。それで指を放せば復び本の如く膨れ出し、泣くとか、咳嗽をするとか、大便をするとか、凡てお腹に力を入れる時には、特に大きくなります。

これは、つまり、その内は、流動物や瓦斯の這入つて居る腸管の一部分が面を出して包まれて居るからでありまして、それを壓すと、ぐうと音して引込むのも、この理であります。

この出臍は、どうして起るかと申しますと、臍帶が脱落ちてから自然に閉ぢてしまふべき筈の、臍の孔、即ち臍輪の閉塞が十分でない、或は閉ることは閉ぢても、その部分が未だ薄くして抵抗力が弱いと云ふやうな所から起るのであります。それで元來虚弱な小兒に起り易く、特に百日咳に罹るとか、常に便祕して居るとか、大きな聲を出して號叫けぶとか云ふ、つまり腹に力を入れることが續けば起り易い譯で、往々一軒の家の小兒が二人も三人もお揃の出臍のことがあります。

併しこれは餘り危險のないものでありまして、その小さなものは、小兒の發育すると共に、自然に治癒つてしまふこともあります。けれども稍ゝ大きなものは、その內で腸管の一部が詰つてしまつて、復た腹の中に歸らず、出口の所で緊められることがないとは限りません、所謂嵌頓と申して、これは非常に危險なものでありますから、兎に角小兒の出臍は、これを治すことを試みなければなりません。それは別に六ケ敷い方法でもありません、先づ靜に縮めて押込みまして、それから銅貨或は胡桃の殼のやうなものを綿に包むで、其處を塞ぐやうに押當てまして、それを絆創膏で止めて置くか、又はガーゼに包むで、腹を廻らして繃帶を施して置けば宜しいのであります。場合に依ては、臍の兩側の腹の皮を以て襞を作つて絆創膏で止めて、臍の所を壓し塞いでも宜しい、其外にも種々の方法がありますけれども、六ケ敷い面倒なことは、醫師に依賴しなければなりません。餘り手療治の講釋などを致しますと、又專門家のお臍が茶を沸かすことになりますから、後は雷樣の鳴る時には、しつからお臍を押へて居る位の注意で、茲に筆を擱きます。

# 消毒藥の用方

消毒藥と云ふことを嚴ましい意味から申しますと、黴菌を殺し、その毒をも消してしまふ作用のある藥のことでありまして、これにも色々の藥品がありますが、今此處には、その作用の軟かな、多少殺菌力があつて、皮膚や創の膿を持つたり、腐さつたり、その他の病毒に侵されるのを防ぐ力を持つて居り、若し既に病氣に取りつかれた時には、その病毒を制して腐れを止めると云ふ作用のある、所謂防腐藥又は制腐藥と云ふ種類のものを一括にして、消毒藥と云ふ題の下にお話致します。

病氣、特に皮膚の病氣、就中創が膿を持つたり、腐たり致しますのは、何ぞ毒がある爲であると云ふことは、昔から考られて居つたことでありますから、矢張毒消し、卽ち消毒の目的で藥を用ひたのでありませうが、その毒は如何にして出來るものやら、如何なる性狀のものやら、全く分らなかつたので、從つてこれに對する消毒藥も盲人が杖を振舞すと同樣手當次第で、偶然適中すれば、幸功を奏したものでありませう。所が段々醫學の進步すると共に、傳染病、流行病は本より、其他種々の病氣が、それ〳〵一定の病原菌に依て惹起さるゝもので、創の膿を持つのも、腐るのも、皆この黴菌の作用であると云ふことが發見されて、その毒の性質も分かつて參りましたので、これらの治療法も昔とは丸で一變して、消毒藥の用ひ方も、學理上から明かになつて來て居ります。

扨てこの消毒藥、又は殺菌劑と申しますものゝ中には種々のものが御座います、例へば硼酸、石炭酸、サリチール酸、安息香酸、クレソール、レゾルチン、過マンガン酸カリウム、過酸化水素、昇汞、フォル

マリン、醋酸礬土、その他數へ擧げれば殆ど無數に御座いまして、尙は新藥として樣々の殺菌劑が、それから〳〵と出來て參ります、然し普通家庭の常備藥品としては一二種あれば澤山でありますから、右の中最も廣く應用されて、效能の著しいものに就てその用ひ方をお話することに止めませう。

第一に硼酸、これは眞珠の樣な、白く光澤のある結晶でありまして、二十五分の水に溶け、沸騰つた湯なれば更に僅で溶けます、又アルコールやグリセリンにも能く溶けます。値段は一磅大抵三十錢位で、至て廉價いものでありますが、その效能はなか〳〵多い。作用は弱いが、確かに消毒力を持て居りまして、防腐劑として普ねく用ひらるゝ善い藥であります。その用ひ方は、先づ極く細末に研磨ましたものを、耳漏の時に、その分泌物を淸潔に拭き取つた後に吹入れることがあり、又鼻が惡くて臭い鼻汁の出る時に、同じく鼻の孔を掃除して、その後に硼酸の粉を吹入れるとか、場合に依ては口や脣に小さな糜爛が出來た時などに、其處に硼酸の粉を撒布することがあります。又これを五十倍から二十倍位までに溶して、口や咽頭の惡い時に含嗽劑とし、又婦人の下部の病氣で、白帶下があるとか、糜爛が出來たとか云ふ時に、これを以て洗ひ、特に眼が惡くて、眼脂が多く、眼に赤筋が張る時に罨法藥又は洗眼劑として用ひて、大に效能があります。其他矢張同じ樣な割合で、グリセリンに溶かして口内に塗り、又ワゼリンに混せて皮膚病、或は創の治癒り際に附けたり致しますが、お化粧の素地に健康の皮膚に塗つても宜敷い、但しお化粧用には、硼酸と從兄弟同志に當る硼砂と云ふ方を能く用ひます。硼砂は硼酸よりも稍や溶け難いばかり、その作用も用ひ方も略ぼ同一であります、只グリセリンに溶かして口に塗つたり、お化粧用に顏や手の皮膚に塗りますには主に硼砂を使ひ、凡て創を洗ふとか、或は眼を洗ひ、又は下部の方を洗つたり致しますのには硼酸水を用うるのであります。硼酸は斯の如く、殺菌力があつて、

而かも殆ど刺戟がなく他の殺菌劑の如くカブレを生ずるやうなことも稀て、且つ値段も安いから、家庭の常備藥品としては、誠に重寶な藥であります。然し硼酸、硼砂とても、毒性は強くないと申した所で多少消毒の效があるといふ程のものでありますから馬鹿にはなりません、若しこれを少し多量に飲ば、劇しい吐瀉を起して、その中毒で死でしまひます、皮膚の外から用うる時も、これが多量に吸收さるゝやうなことがあれば、矢張中毒を起し得るものでありますから、注意しなければなりません、私は決して手療治をお勸め致す譯ではありませんが、硼酸の效力を示す爲めに、醫療上斯樣〳〵の場合に用ひらるゝと云ふことをお話したのに過ませんから濫用されては困ります。と申しても前に申上げた分量を誤らぬ以上は、殆ど如何なる場合にでも、家庭に於て適宜使用して、最も危險のない消毒藥であります。

次には何人も御承知の石炭酸の用ひ方を御紹介致します。石炭酸も無色或は白色の結晶性の塊でありまして、彼の御承知の一種特有の臭が御座いまして能く水に溶けます、尤もこれを溶かすには通常熱を加へて温ため、それに湯を加へて攪拌しながら、適度に薄めるのであります。その薄め方は用うる場合に應じて種々異ならなければなりませんが、通常皮膚や創の消毒には百倍或は二百倍から五十倍位までのものを用ひます、然し器物や排泄物、即ち大小便痰などを消毒しやうと思ふ時には三十倍或は二十倍位のものを用うるのであります。藥店で石炭酸水として賣つて居りますのは五十倍程のものであります。この石炭酸と云ふものは、殺菌消毒の力は強いだけに、人間の體にも甚しい腐蝕作用を呈する所の恐ろしい劇藥でありますから、前に申上げた硼酸のやうに輕々しく應用する譯には參りません。手や創を消毒致しますのには、先づ湯と石鹼で能く不潔物を除いて、それから五十倍の石炭酸水で洗ひ、それから一旦煮沸した水で洗ふのであります。傳染病患者の吐瀉物又は排泄物などを消毒しますには二

十倍の石炭酸水を、同容量だけ注ぎ加へて、棒で攪拌す。衣類等の消毒には、矢張二十倍の石炭酸水に一日間浸して置て、それから普通の洗濯をするのであります。斯樣にすれば、赤痢菌であらうが、虎列剌菌であらうが皆死んでしまひますから安心です。

此外石炭酸は、醫療上に於ては、痛を止め、又は痒みを止め、或は腐蝕の用に供することがありますが、勿論斯樣なことは家庭に於て行ふべきことでもありませんが、一寸した怪我で創をした時に、醫師が近所に居らぬ爲に、治療を受ける迄に、其處を石炭酸水で拭いて繃帶をかけると云ふ位のことは、應急の手當として、家庭に於て施さなければなりません、但し石炭酸は、前にも申す通り人の體にも毒でありますから決して分量を誤つてはなりません、五十倍から百倍位のもの、これより濃ければ害を招ぎ又餘り薄くては效が無いのであります。尙ほ手足の指が腫れて痛む時に、石炭酸水を布に浸して所謂濕布繃帶又は罨法を施して效のあることがありますがこれ亦危險で、往々爲に手や足の指を眞黑に腐さらすことがあります、卽ち石炭酸壞疽と申しまして、特に老人に屢々見る所であります、これは必しも、そう濃くなくとも百倍位のものでも、少し長時間濕して置けば起るものでありますから、醫師の監督がなければ、濫りに用ひてはなりません。

次に近來普通用ひられる消毒藥は昇汞水であります。これは猛毒藥でありまして、色も臭もありませんから、ひよつと誤つて飲みでもしたら大變です、劇烈なる中毒症狀を發して、上げたり下したり、それも非常な苦しみをして死にますから、餘程注意しなければなりません。それでこれには通常スカレット又はフクシンなどを以て赤い色を著けて、間違はない樣にして置きます。斯樣に危險な藥だけに、消毒力は又非常に強いもので、一萬倍乃至三萬倍程の薄い昇汞水でも既に黴菌の繁殖を止め千倍乃至五千倍の溶液では、暫時の間に黴菌は勿論、その最も殺し難い、芽胞迄も撲滅してしまふ力があります。皮

臍や創の消毒には、普通三千倍乃至五千倍の昇汞水を用ひますが、眼などを洗ふ時には八千倍から一萬倍位のもので澤山であります。又傳染病患者の用ひたものなどを消毒するには千倍か二千倍の昇汞水を用ひます、但し昇汞水は痰や糞便の消毒には不適當である、何故ならばその上の方だけに作用して、痰や糞便の中の方迄は浸み通らないからであります。それで昇汞水は陶器、硝子、又は木製なものを消毒するに適して居ります、即ち布に浸して室内の戸障子、柱、又は器具類を拭くのであります。尙ほ一つ注意すべきことは、昇汞水は、これを金屬製の物につけてはなりません、金屬製のものは直ぐ腐つてしまいます、例へば金盥などに昇汞水を入るれば忽ち腐つて穴があきます。金盥に限らず、金物は何んでも腐りますから、刃物などでも昇汞水に入れた日には忽ち役に立たなくなつてしまひます。

# 齒のいたみ

## 一、齒の組織

齒のいたみは随分ひどい痛苦の方で、夜つぴてねられずにのた打つたり、又一寸した食物が痛み場にふれた爲にいきなり飛び上つてまた直ぐ倒れたまゝ十五分間位は總身が震へる程痛い事もあるもんです。平常口中を清潔にして齒牙の養生をむねとすべきは勿論の御話ですが併し痛み出してからは養生法では間に合はない夜中などなれば先づ一通りの應急手當をして、若し出來る事なら早速齒科醫の所にかけつけるのです。

齒の構造をざつと申しますと齒齦から外へ現れて居る部分では最外部の層を琺瑯質と申しまして大抵瀬戸物の釉藥や瀬戸引鍋の瀬戸と同様な質の者です、其中に骨質又は象牙質と申す層があつて、又其中則一番中心の所に齒髓と申す者がはいつて居中心の齒髓から骨質と琺瑯質が上へ上へと被つて居る様子は

丁度刺蝟の皮が幾重にもなつて居のと同じ有様です歯の神經並びに血管は顎骨の中から主に歯髓へ來てこゝから極めて細い枝に分れて骨質の組織内に終つてをります、琺瑯質は至極堅牢で温熱を傳へず又神經もありませんから之さへ損じなければ決して歯の痛む事はない、併し之が缺けるか或は長い月日の間にすりへらされるかして骨質の露出した部分が出來ますと夫れへ湯が滲みる水がしみる、風がしみる許りでなく琺瑯質の取れたあとには大抵大小はあれ空洞が殘つてその中へたべ物のかすが這入りますと二三時間の内には醱酵腐敗致しますこう段取りが進んで參るとそろ〳〵と歯が痛み出す、齲歯がいたむのはいつでもこゝで出來た酸敗物が骨質内の神經の尖を刺戟するから起る事で、齲歯ば取りも直さず琺瑯質のとれて、空洞を殘した歯牙の事です。

## 二　齲歯

琺瑯質は極めて堅牢で種々な化學的侵蝕にもよく堪えますが象牙質となるとそうは行かぬ一旦象牙質が露出して之が酸性の者に直接ふれますとぢきに侵蝕せられて溶けてなくなります、人のたべる者は凡て微酸性であるのでなければ味がまづくて迚も食ぬ又食物が醱酵して腐敗して出來る者は殊にやゝ強い酸性の物です、だから穴が出來だすとわりに僅な月日で頗る大きい空洞になつてしまふのです、之が俗に申せば「蟲が食ふ」と云ふ事柄に當ります。

そう〳〵その所の象牙質がみんな溶けて、髓が自家に露れて參れば之からは非常な厄介が起きる飛び上る程痛たかつたり、ねられぬ程苦しかつたりするのは大抵はこうなつてから後の出來事です。

若し象牙質が薄くなつてその間隙をくゞつて細菌が歯髓の中まで這入つて行けば此所にある者は次第に化膿致す化膿するにはするがその膿の出場がありませんからかやうな場合には炎症が周圍へひろがつて頰や顎まで腫れて來るのです、無論同時にはげしい痛みも二三日か四五日或は夫れ以上もつゞきます、つまりは膿が外へ出てしまふ迄は痛いのです。

齒の治療も（上申す樣な）症狀の種類に依つて違はなければならぬ、從つて專門家に見せなければ、どういふ手當が適當であるかはとても一概には申されません、要するに齒痛のひどい時一番用心な事は成丈早い内に必ず齒科醫に見せる事です、齒科醫が間に合はなければ醫者でも宜しいです。

けれ共齒を病む人は極めて多い、殊に美しい御婦人方には蟲齒とか頭痛とか申す者が持病の樣ですから又御婦人方ではさう／＼勝手な時に醫者へも出かけられず、事に依ると痛い齒を喰ひしばつて茶の花の或は火箸の遊火のと周旋せられなければならん場合もありますから、一體の應急手當だけを一寸申上げましやう。

### 三　應急手當

一番無害で又割合に效果の著しい方法、痛い齒を微溫湯でよく／＼含嗽する事です、湯は熱くても溫くても行かぬ、又冷でも寒でも行かぬ、丁度體溫と同じ位の溫かさで、口中に入れても些も溫冷を感じない樣でなければ却て刺戟になる事がある、その湯加減は無論口で試す外仕方はありません。

かやうな湯か、或は其中へ約〇・五乃至一・〇％の割合に食鹽又は鹽酸加里を溶かした者で數回ごりかへて十五分か三十分も含嗽をしますと輕度の痛は治りますし、重い者は堪え得られる位に和らいで參ります。

若し空洞の中へやゝ大きい食物が這入つて之が苦になる樣な時でも大抵上の樣にすれば取れますが、いくらうがひしても取れなければ楊子を使つて出さなければならぬ、其楊子は軟な者ほど宜いのです。

一體ふだん使ふ楊子でも成べくは軟かな者が宜い、諺にも奥齒に物がはさまつたといふ位、齒の間へ食物が挾まつたり又は空洞のなかへ這入りたりすれば馬鹿氣た程苦になる者です、苦になるのは自然の妙機で、畢竟はかやうな仕掛で天が人に夫れを除けと命ずるのである、取らなければ醱酵し腐敗して其時出來た酸性の者が象牙質は勿論の事長い月日の間

には遂に琺瑯質をも侵蝕します、だから歯の間や中へはいつたものは勿論取る方が良いですが之を取る方法が適當でない、却てこらんより悪い結果になる事がある位です。

一番良い法は痛い歯でも痛まない歯でも、上中す樣にうがひで取るのですが、我國では一般に小楊子をつかふ習慣になつてをります小楊子は多くは黑文字制中にはもつこ堅い木で作つたのも見うけます、小生の考でも野官歯よりも猶軟いものを用ひたいこ思ふ位です。

軟い者で小生の實驗上良い者は、まづ眞書筆夫から厚紙の細く切つたの、又は寸燐の棒を削つた者抔で殊にマチの棒は、實際生活に適切な樣に思ひます。

一體同じ楊子を何返でもつかつては又襟にさしておくのは衞生上から論ずるこ不見識此上もない話で、不潔な計りでなく隨分有害な者だらうこ思ふ、若しかやうな一本の楊子を顯微鏡で見ましたら必ずや幾千萬億の細菌類がうちや／＼こたかつて居るに違いないでしやう。

又男子はペン先で、女子は針で歯をつゝくのを時々見ますが、之程悪い習慣は些ないこいつても好いです、黑文字でさへ堅すぎる者が鋼鐵でやられてたまるもんですか、多くの齲歯はその穴の大さの半分位黑文字でつゝきあけたもので、又鋼鐵類の楊子を使ふ人は三四ケ月で健全の歯から齲歯を二三本は製造してくれます、云はゞ歯科醫の大恩人のわけです、楊子を使はずにうまく行くならば勿論使はないに越した事はない、止を得ずして使ひましても殊に現在痛む場合には必ずあこで十分うがひをします、痛い所を何時迄も小楊子でつゝくなどは以ての外のひが事です。

以上の注意をしてもまだ痛が和がなければ指の先へ「アンチピリン」か「アンチヘブリン」を小々つけて夫れを歯の空洞若くはその歯齦へぬる、きかなければ二三度くりかへす、夫れでもまだ利かなければ最後の手段こして、止痛藥を歯のうろに施します。

# 身體の洗濯（承前）

この前には、第一に皮膚一般の洗濯方を述べてそれから、頭、耳、鼻、眼の洗濯までお話をして、頸から上には口の洗濯が一つ殘つて居ります、今日はこれから申上げます。

## 六、口の洗濯

口は禍の門と云ふのは、名言であるさうであるが、これは誰か滅らず口をたゝいて、喰はされたか、へこまされた人の金言であらうが、實際入らざることを口外して奇禍を求めた例も少なくない。それで私も用心して、この一項だけは極めて簡單に述ぶることゝする。右は主として精神上の產物たる言語の出口としての口の用心で、所謂口汚いことを言はずに口潔なことばかりを言へとのことであるが、口は又身體を榮養して、生命を繫ぐ所の飲食物の輸入口である。然るに單に生命の糧ばかりは通らず、往々これと共に恐るべき病魔が人知れず身を潛まして侵入するから注意を怠つてはならぬ。赤痢、窒扶斯、虎列剌、孰れもこれから闖入するのである。然しこれは此處を通過して腸迄行つて惡さをするのであるから話は別として、小兒の鵞口瘡とか實扶的里とか云ふものは、此の口に止つて病氣を惹起す、殊に齲齒と云ふものは、大抵の人が罹る、而かも齲齒の害は容易ならぬもので、單に齒が痛むとか、物を能く噛むことが出來ないとか、口が臭いとか云ふに止まらず、延いては消化を惡くし、大に健康を害する。それのみならず近頃は齲齒の孔の中には往々結核菌が居るので、彼の頸にグリ〳〵を出來す所の頸腺結核は此處から結核の黴菌が入り込むのであると云ふ說さへも出て來て、益々齒や口の洗濯が大事になつて來たのである。扨て然らば口の洗濯は如何にするかと云ふに、先づ齒の洗濯には、楊子と齒磨粉を用ひて洗濯する、齒磨粉は多少殺菌力があつて、口中の黴菌を殺すとか、唾液の變化を防ぐとか、香がよく口がさつぱりするとか云ふやうな效能があつて、殊に

歯にさはらぬ程柔かな細い粉でなければならぬ。然し數百種もある齒磨粉の中、孰れが最も善かと云はれても一寸返答に困る、廣告を見れば、どれもこれも一番良いのであるから、先づ評判の善いものが宜しいとして、次に楊子は如何なるものを擇ぶかと云へば、餘り毛の硬いものは宜しくない、歯質の元來善くない人は、その爲に歯を耗らす、と云ふて餘り柔か過ぎるものは、直ぐ毛がぐしや〳〵に濡れてしまつて、歯と歯との間に挾まつて居る食物の殘滓が除れないそれで、剛からず柔ならず、丁度善い程のが宜しい、歯を磨くには、楊子を熱湯に浸して、水を切り、それに齒磨粉を著けて歯の面に沿ふて縱に擦する、又横に擦する。それから微溫の湯を以て口を漱いで、齒磨粉と不潔物との捏物を洗ひ出し、次に楊子も洗つて、又粉を著けて、今度は歯の裏側の方を磨くのである、殊に臼歯の咀嚼面は凹凸になつて居て、食物の殘物が止まつて齲歯を起し易い所であるから、これを氣を付けて能く磨くことが必要である、而して又含嗽する。使つた後の楊子は硼酸水又は熱湯で能く洗つて、次に用うる時までには十分乾燥するやうにして置かなければならぬ、若しこれを濕れたまゝ箱の中に入れて置けば、無數の微菌が繁殖する、尤も餘り恐るべき微菌も湧かぬやうであるが、兎に角これを洗つて顯微鏡で見ると、胸が悪くなる程澤山の微菌が繁殖して居るから、弱い消毒藥で洗つて乾燥して置くが宜からうと思はれる。尚ほ一年に一二回は、歯科醫に歯の檢査をしてもらつて、本式に歯の掃除、洗滌をしてもらうやうにしたいものである齲歯は最初の間は一寸氣が付かずに居て、其間に急に大きな孔が表はれて痛むことがあり又歯石が溜れば歯齦の間から歯の根の方まで進んで行つて、歯をぐら〳〵にしてしまふことがあるからこれも溜めぬやうにしなければならぬ。此等は縱令大丈夫と思ふても一年に一二回歯科醫に檢査と洗滌を頼めば安全である。無性にして居つて大きな齲歯の孔が出來てから、痛い目をして幾日も〳〵も時間

を費して、高い療治代を納めるよりも、この方が遥かに賢明な養生法である。

### 七咽頭の洗滌

咽頭は上は鼻と耳と通じ、前には口が開いて居り、下は食道並に喉頭に續て居るから、種々雑多な物が此處を通過する、從て種々の病毒も附著する譯で、例へば一寸風を引いて鼻が悪くなつても、その鼻汁が咽頭に行て刺戟すれば赤くなり、夜間口を開いて眠れば乾燥して、所謂咽頭がから〳〵になつて變な感じがする、尚ほ其入口の兩側には扁桃腺と云ふ表面の凸凹したお團子のやうなものがあつて、これは能く腫れたがるものである、所謂扁桃腺炎で、扁桃腺炎の中には、只赤く腫れて別に痛もないが多少呼吸や飲食を妨げその代りになか〳〵治癒らぬ所の慢性のものもあるが、中には急に腫れ出して痛が強く熱も三十九度四十度位にも昇り、時としては其處に膿を持て、危險を來すものもあり、又彼の實扶的里は好で此處に著くもので、その性質の悪いことは、子供を持て居る親達の知らぬものは無い位に怖れられるものである。斯樣に種々の病原物の停留場であるから、咽頭の洗滌は大切なことである。咽頭の洗滌は、どうするかと申せば、先づ含嗽が第一で、只の湯か水でも宜敷いが、重曹、硼酸、場合に依ては、クロール酸カリウム即ち鹽剥などを薄く溶いた水で以て含嗽する、重曹は、粘液の固まつて居るのを溶かす目的で五十倍か百倍のものを用ひ、硼酸や鹽剥はどちらも多少殺菌消炎の目的を以て矢張五十倍か百倍位のものを用うる、鹽剥は少しく刺戟するものであるから、小兒や婦人には、餘り感心しない特に中毒を起す虞もないとは限らぬから、これは醫師の處方に依ることゝし、先づ硼酸か、重曹水ならば危險はない、此等の水を用ひて咽頭を洗滌するのには、先づ極僅かばかり、即ち小さな杯に一つ位を含むで、頭を反らして、呼吸を靜にして十分咽頭に屆かせ、極靜にアーと云ふ音を出すやうにするのである、さうすれば咽頭の餘程深い部分に附著いて居

る粘液も溶されて出て來るものである。然るに通常大抵の人が朝起きて洗面する時に含嗽をするのを見るに、口に一杯水を含むで隣近所迄も聞へるやうな、ガラ／＼と云ふ雷の様な音を起てゝ含嗽をする、斯様にすれば口の中だけの洗濯にはなるが、咽頭の中までは届かない。漸く咽頭の奥の方まで行かうとする水も此ガラ／＼運動に由て皆口の方へ跳返されてしまふのである。之は少量の水を含むで極靜にガラガラをやらなければ本統でない。（以下次號）



# 質疑

問● 一年四ヶ月の男の兒、時々熱の出たることあるのみにて其外至て健かに育ち候も此一二ヶ月大便固く通じ難く漸く灌腸にて出し候得共、なかなか全快致し兼候へば、如何なる藥を用ゐて宜敷きや又其他の方法等最近御發行の誌上に於て御敎示被下度失禮ながら端書を以て此段御願申上候

（伊、み、）

答● 小兒の便祕は、種々のことに由て起りますから、其原因が分からなければ、迚も適當の療法を申上げ兼ますが、他に異常無しとあれば、先づ藥を用うるよりも食物を變へて御覽になるが宜からうと思ひます、例へば、牛乳を少し餘計に飲ますとか、又既に一年四ヶ月になつて、居れば、果物の汁或は果物を砂糖で煮て絹漉にしたものを少しづゝ與へて見るも良からうと思ひます、但し酸味の餘り多いものは不可ません、又マルツ汁エキスと云ふものを牛乳に混せて與ふることをお勸め致します、これは身體の養にもなり、通じも善くする效能があります、灌腸も如何に用ひられたるか分かりませんが、石鹼水の灌腸などで出れば、矢張御用になつて差支ありません、尙ほ腹部を靜に按摩することもよからうと思ひます。此等の方法で效

なくば、妄に下剤などを用ひず、小兒科の醫師に診察を受けられんことを希望致します。

問● 前略 私 母事當年五十二歳に相成候所、近頃右の眼涙こぼれ誠にうるさき由にて難儀の趣に御座候が、目を返して見るも別に惡き様にも無之、數年前少しトラホームの氣味有之療治致し全快致したること御座候得共、只今の所にては何分目頭の所に涙溜りうるさしと申居候これは自然になをるものに候や、又年の加減と申すものに御座候や、何か止まる方法も有之候はゞ御序を以て婦人衛生雜誌上に於て御教、被下候はゞ幸甚の至に奉存り候右御願迄匆々　（松、登）

答● 御尋の模様にては、多分眼瞼の目頭の所にある涙の孔或は、それより鼻の方へ通じて居る涙の道に故障があるものと推察されます、果してそれとすれば眼科醫の治療を受けて、場合に依ては手術するより外に致方はありません。



## 雜報

### ○天恩無窮

至仁なる我が皇后陛下には、西南戰役以來軍務のために手足を失ひし軍人軍屬に對し、數回に御下賜あらせられし義手足は、その數七萬餘個に達し居れるが、其後義手足製作の技術の進歩せる今日より觀れば遺憾を覺ゆるもの尠なからざるに依り、今回新に精良の品を洽く前記の軍人軍屬に御下賜あらせらる可く内定あり、遠からず宮内省より其旨發表せらるべしと拜聞す、天恩の無窮なる誰か感涙に咽ばざるべき。

### ○天職に殉せる看護婦

今回清國に事の起れるに際し上海赤十字隊に加はりて、官軍革命軍の別なく傷病兵を救護せんが爲に武昌漢口方面の戰地に入り込みたる看護婦細谷松子

孃は(二十八)、不幸にも漢口に於て官軍の流彈に中りて死せりとの報あり、孃は赤十字社神奈川支部の看護婦養成所を一番にて卒業し時の總裁小松宮殿下より銀時計を下賜せられたることあり其後實踐女學校に入學したるも學資に窮し再び看護婦となり、又語學修業の目的を以て上海航路の博愛丸にコックとして苦學すること三年、今回の事變に會して仁術に心得ある孃の慈悲心は止むに止まれず彈丸雨飛の間をも辭せずして其天職に盡し、其光しき榮ある最後を遂ぐるに至れるなりと、去十月卅日附を以て松子孃より母しづ子に宛たる絶筆の端書なりと云ふもの實に左の如し、看護婦としての心意氣感ずるに餘ありと謂ふべきなり。

激戰と大火とにて上陸來出ず翌朝雨と降り來る彈丸の中を潜りて戰線に近きて平壤の病院に辿り付き目下只管傷病兵の看護に從事致し居候、時々砲丸飛び來りて危險は刻々に身邊に迫り候へども看護婦の天職を盡すかと思へば氣も心も爽かなるを覺え申候、只一命を大天の御父に捧げ力限り根限り働く積りに候

○撒水自働車

東京市街の撒水方法は、これまで專ら人力撒水車を用ゐて居つたが、東京のやうなぼく〳〵した土質で乾き易き道路では骨の折れる割合に效が尠いので市當局者は電車市有を機として電車を撒水に利用しやうと企てたが様々の故障があつて困り、今度は計畫を一變して明年から試驗的に主なる街路だけに自働車撒水を實行し、其成績が良かつたならば他の街路にも段々及ぼすと云ふ手筈になつたそうである。

○日本赤十字社救護團の出發

清國動亂地へ向け南北兩軍の傷病兵救護の命を受けたる日本赤十字社第一救護團上野醫長、宇敷醫員、金子醫員、吉田調劑官、宮内通譯、橘書記、清水看護人長、鳥塚看護人長以下看護人二十一名及仕丁二名厨夫三名は豫定の如く十二日午前七時二十分新橋發にて出發せり同驛には赤十字社副社長小澤男、赤

十字社病院長平井軍醫監、其他篤志看護婦人會員百餘名各團員の親戚知己等約七百餘名待ち受け互に告別の辭を交換し一聲の汽笛と共に萬歲の聲に送られて横濱に向け出發し同八時十二分横濱に着、直に筑後丸に乘込み同船甲板上に於て小澤社長以下の見送人に最後の告別を爲し同十時半に首途を祝する萬歲高く打ち振る手巾を後にして勇ましく之に和しつゝ出帆したり尙同團は上海に於て襄陽丸に乘り換へる筈なりしも大利丸に變更したる由

○理想の小兒室

過般箕面に開設されたる山林子供博覽會出品中の小兒室設計圖は、辻村秋峯氏の考案に係り頗る參考の價あるものゝ由なりしが、これに就き雜誌「兒童研究」は次の如く記せり

該設計は、主婦、保姆、小學校教員、小兒科醫等各方面の注文を參酌し、且工業學校建築科にて通氣の裝置を施せる天井楣間の工合等につきては專門家の意見によれるものにして、居間、勉强間、遊戲室、寢室等を兼ね、廣さは八疊敷にして、十二三の男兒、八九歲の少女、六七歲の男兒の三人同胞共用の設備となり居れり。

天井は普通のものより少しく高くし、通氣の裝置あり、中央と四方の柱に半間毎に鈎を取附けありて祝祭日、誕生日、入學卒業等に種々の趣向にて旗飾りをなすためなり、楣間は廣くなして山に關する總てと海に關する總ての繪を畫き、南東に開き窓、西北に壁附の間窓を設け、而も其窓は汽車電車等の窓の式にして、腰掛も亦汽車電車式にして、子供は單調を嫌ふを以て腰をかけ或は上り或は飛び或は傳へ步き又は轉びなどして危險なきやうになし、毛を內に含ましめ洗濯に適する質のカーキ色の布にて包みあり、窓間の壁には子供用の黑板を仕込み白墨、拭物は緣を開けば出で之を閉づれば白墨の粉は自然に家外に排出さるゝ様になしあり、又繪卷を嵌め込みて動植物標本、地理、歷史、校訓等の繪を描きて柱の中に卷取る様に仕立てゝ毎日柱の窓を開け卷き替へる

仕掛けになり居れり、一方の壁の上部の黒板は保護者の用ふるものにて『明日何時何處へ連れて行つて上げます』とか『三時にお菓子をあげます』とか感心な孝行な子があつたと新聞に出て居ます』とか云ふが如き揭示をなすなり。

入口は硝子戸をなし二枚共に壁裏に引取る樣になしあり、南窓に接したる出格子式の處に年齡に應じて書籍文具等を納込あるように特に工夫されたる机を嵌め込み、此處の壁はインキ墨等は拭き取れるようの裝置となり、又鞄、帽子等を置くべき特に工夫されたる戸棚を作り、廊下は手摺を立枠式となして幅を廣くし、二個所に一坪餘の溜りを設け、洗面所は上り口に設けて、學校歸りに直に顏及び手足を洗ふようになさしむる等總ての點に於て注意を凝らしたるものなり。

# 前髪心の覇王　美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

| | | |
|---|---|---|
| 壹尺 | 中 | 貳匁四分 |
| 壹尺貳寸 | 大 | 三匁四分 |
| 壹尺五寸 | 極大 | 五匁五分 |



## 私立大日本婦人衛生會徽章規定

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メツキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢(黑塗箱入 送費九錢)　六拾錢(桐箱入 送費六錢)

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

---

### 婦人衛生雜誌代價及廣告料

**代價**

一冊　定價金貳拾錢　郵稅壹錢
三冊(三ケ月分)　前金郵稅共　金四拾五錢
十二冊(一ケ年分)　前金郵稅共　金壹圓八拾錢

**廣告料**

一頁六十二行　一行二十三字
壹頁　金五圓　半頁　金貳圓五拾錢
○特別廣告　壹頁金拾圓　半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行二十五錢

**規定**

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ


明治四十四年十一月十七日印刷
明治四十四年十一月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本鄉區駒込追分町三十番地　莊司秋次郎
印刷者　東京市本鄉區駒込林町百七十二番地　今井甚太郎
印刷所　東京市本鄉區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京本鄉區龍岡町　吐鳳堂
東京市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鈴屋町　良明堂
同市本鄉區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本鄉區本富士町　盛春堂
名古屋市本町三丁目　丸善書店

（明治四十四年）明治四十三年十二月一日〔每月一回〕

十二月の巻發行

# 新婦人

新婦人清遊會

は如何に破天荒の大盛況を呈したるか會員も會員外も本誌を一見せよ

第一年第九號　定價　一冊二十八錢郵税二錢五厘　六冊前金郵税共壹圓七拾錢

繪畫寫眞版概目

頭の雪　油繪極彩色　四十四年掉尾の模範……川村清雄筆

舟の醉　美人舷頭に立ちて芳雪温く温柔玉の如し……山中古洞筆

物思ひ　佳人愁思を帶び暗涙紙上に殞つ……コロタイプ寫眞

妃殿下　東伏見宮　松平康民令孃隆子姫照子姫

眞宗高田派　新法主夫人ふみ子の方同令孃敎子姫

嫉妬不用論　者大倉夫人

閨秀作家　神崎恒子女史●水野ゆう子孃●濱野りよ子孃●齋藤法善氏令孃君枝子孃

清國革命軍女俠　林原高子女史●御園生はる子孃●杉山寛氏夫人●小川一雄氏夫人

女優東日出子　孃●佐藤はま子孃

哥澤振　家元柴雲子孃●松平海軍大尉夫人●

文藝協會　女優高野千歳孃

藝妓　より見たる

戀愛　觀察者寺島屋

小雛　其他數百

異性の愛の研究　筆者の如何に各方面に渉れるかを見よ

大隈伯●大倉喜八郎氏大倉くみ子君●成瀬女子大學長●須藤博士●藤井浪子●水野仙子●鹿島銀子●竹本朝重●平岩博士其他數十家

附録　家庭日記　十二月分

●温度表●晴雨表●獻立表●來客簿竝に九星暦附

見本一冊郵券一錢

賣捌所は全國著名の書林雜誌店

發行所　東京市本郷區龍岡町　振替東京三〇五八番　聚精堂　電話下谷一六七二番　電話下谷四〇七九番